



マイナビ進学総合研究所

2022年度進学トレンド総括

ver.1.2

INDEX

はじめに	P.3	III.学校選びに関する意識	P.25
冒頭ご挨拶	P.4	学校選びに関する意識 — TOPICS	P.26
本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧	P.5	志望校選びの際「重視するポイント」	P.27
本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウイルス影響について	P.6	志望校選びの際「重視するポイント」【参考：2021年3月卒】	P.28
I.高校生の進学を取り巻く環境	P.7	志望校選びの際「重視するポイント」【参考：2017年3月卒（5年前）との比較】	P.29
18歳人口及び高等教育機関入学者数・進学率の推移	P.8	進学先選びのポイント【保護者】	P.30
大学入学者数の推移／選抜方式別入学者数の推移	P.9	新型コロナウイルスの流行の影響で重視するようになった「学校選びのポイント」	P.31
学習指導要領の変化	P.10	新型コロナウイルスの流行の影響であまり重視しなくなった「学校選びのポイント」	P.32
II.高校生の活動状況	P.11	進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいること	P.33
高校生の進路状況 — TOPICS	P.12	子どもの進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいること【保護者】	P.34
進学先校の「認知時期」（年度比較）	P.13	進路決定のために知りたいこと・学校の授業でやってほしいこと	P.35
進学先校の「認知時期」（学校種別ごと）	P.14	子どもの進路選択・学校選びについて、どんな情報が欲しいか【保護者】	P.36
進学先校の「認知時期」（年度比較）（学校種別ごと）	P.15	オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報	P.37
進学先校の「認知時期」（累計）	P.16	高校卒業後、進学する際の住まいについて	P.38
進学先校の「資料請求時期」	P.17	高校卒業後、進学する際の住まいについて（現居住エリア別）	P.39
進学先校の「イベント参加時期」※WEB含む	P.18	IV.高校生の価値観	P.40
進学先校の「出願決定時期」	P.19	将来働く「場所」について	P.41
進学先校の「出願決定時期」（累計）	P.20	将来働くときに、最も大事にしたいこと	P.42
「資料請求時期」進学先校と非進学校との比較	P.21	高校卒業後の生活の不安／興味を持っている政策テーマ	P.43
「イベント参加時期」進学先校と非進学校との比較	P.22	V.2023年卒以降の展望	P.44
「イベント参加割合」進学先校と非進学校との比較	P.23	【参考資料】2021年度入試総括より	P.46
「出願決定時期」進学先校と非進学校との比較	P.24		



はじめに

冒頭ご挨拶

コロナウイルスが猛威を振るい、その影響が少し落ち着き始めた矢先、ウクライナ情勢の悪化、20年ぶりの水準となる円安と、日本の経済界に多大な打撃を与える状況が続いています。当然ながら、進学を控える各家庭にも多大な影響が及んでいます。

先行き不透明な中、政府は未来教育創造会議の第一次提言を公表しました。教育に関わる全ての者が、勇気ある改革の断行を迫られていると感じます。

弊社では、高校生向けのアンケート調査を実施しており、その調査結果やマイナビ進学（進学情報サイト/進学情報冊子）の資料請求状況から、高校生の進路選択の傾向や特徴を分析してまいりました。

本年もこの資料にて分析結果の一部を紹介させていただきます。募集広報業務や進路支援、ひいては学校改革の一助になれば幸いです。



マイナビ進学総合研究所
主席研究員 宮内 章宏

2022年7月吉日 マイナビ進学総合研究所 主席研究員 宮内 章宏

本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧

▼本資料の目的

マイナビ進学の活用状況と高校生への調査から高校生の進路選択の実態に迫ること。

▼今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧

調査名称	高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査				マイナビ進学会員定期調査			マイナビ進学会員トレンド調査	高校生の進路に関する保護者調査
調査目的	進路を決定した高校生の意識や進路選択に関する状況などの把握をするために実施。				進路を考える高校生に対し、高校生の意識や進路選択に関する最新状況などを定点観測するため定期的実施。			「生活スタイル」「文化」「流行」「価値観」など、高校生の実態を把握をするために実施。	高校生の保護者の動向、考え等について現状を把握し、社会に情報提供を行うために実施。
調査対象	当該年度3月卒業予定のマイナビ進学会員				マイナビ進学会員の高校生			マイナビ進学会員の高校生	回答時に40歳以上で、長子として高校生を養育する保護者
調査時期	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2021年4月	2021年6月	2022年5月	2021年11月	2021年7月
調査方法	WEB調査 郵送調査	WEB調査 (一部郵便告知)	WEB調査		WEB調査			WEB調査	WEB調査 (一部郵便告知)
回答数	4,247人	2,729人	2,630人	3,107人	2,177人	1,879人	996人	2,054人	1,200人

本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウイルス影響について

▼本資料における短縮表記について

誌面の都合により、下記のように短縮表記をする箇所があります。悪しからずご了承ください。

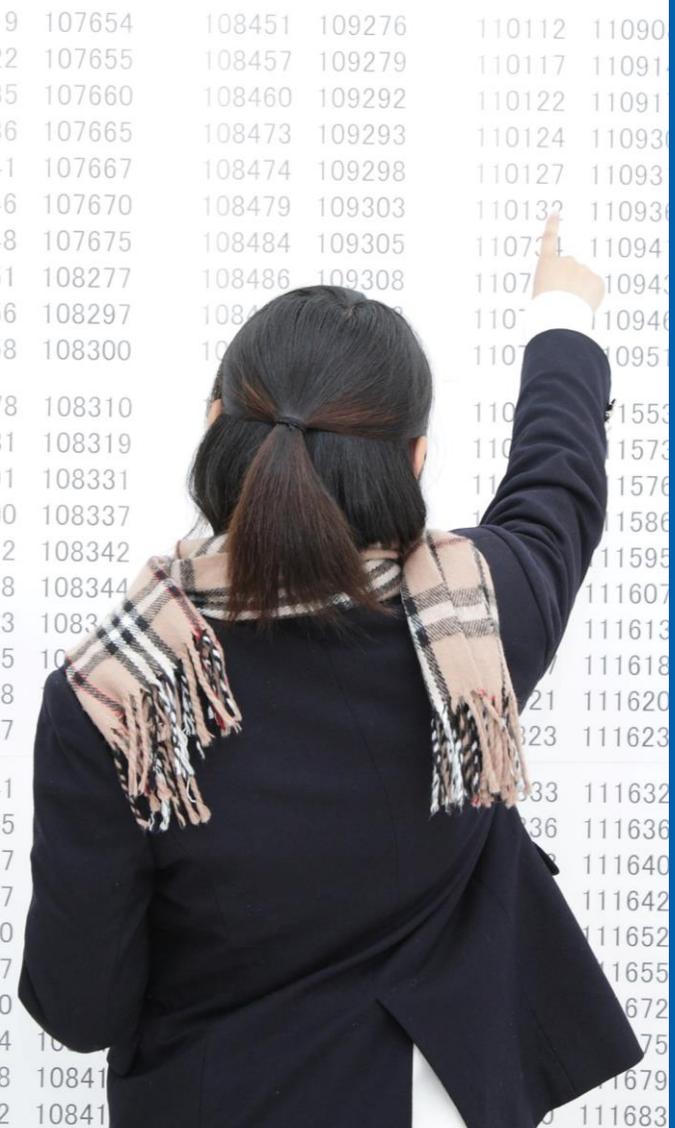
- ・「短期大学」・・・『短大』
- ・「専門学校」・・・『専門』
- ・「高校●年生」・・・『高●』 『高●生』 『●年』

▼年度表記とコロナウイルス影響について

下記の通りまとめておりますのでご参考ください。

西暦年度	和暦年度	期間	入試年度	2021年卒	2022年卒	2023年卒	2024年卒	緊急事態宣言	まん延防止等重点措置
2019年度	令和元年(5/1-)	2019/4/1- 2020/3/31	「2020年度入試」	高2	高1	-	-	-	-
2020年度	令和2年度	2020/4/1- 2021/3/31	「2021年度入試」	高3	高2	高1	-	①2020/4/7～5/25 ②2021/1/8～3/21	-
2021年度	令和3年度	2021/4/1- 2022/3/31	「2022年度入試」	-	高3	高2	高1	③2021/4/25～6/20 ④2021/7/12～9/30	①2021/4/5～9/30 ②2022/1/9～3/21
2022年度	令和4年度	2022/4/1- 2023/3/31	「2023年度入試」	-	-	高3	高2	-	-

↑ 本資料の主な分析対象

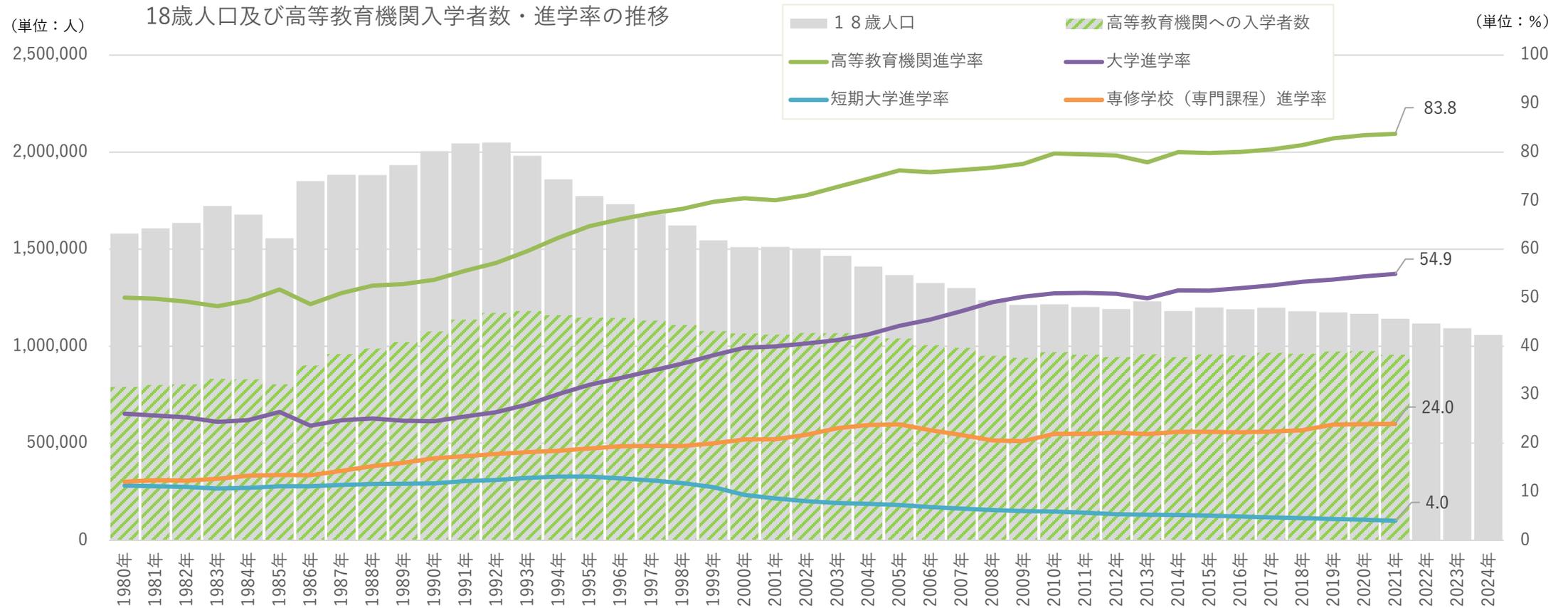


1. 高校生の進学を取り巻く環境

18歳人口及び高等教育機関入学者数・進学率の推移

大学進学率は上昇トレンドをキープ。18歳人口は本格的に減少フェーズへ。

2021年、大学進学率は54.9%と過去最高値を記録した。一方、短期大学進学率は下降が続き、入学者数確保の苦戦が続く。専門学校進学率はほぼ横ばいに推移。文部科学省の推計によれば、18歳人口の減少スピードは今後益々激しくなる見込み。



※全体の進学率には「高専4年在学者」を含むが、割合が少ないためグラフには表示しない。

【参照元データ】
・学校基本調査（年次統計、中学校卒業生数、中等教育学校前期課程修了者数）

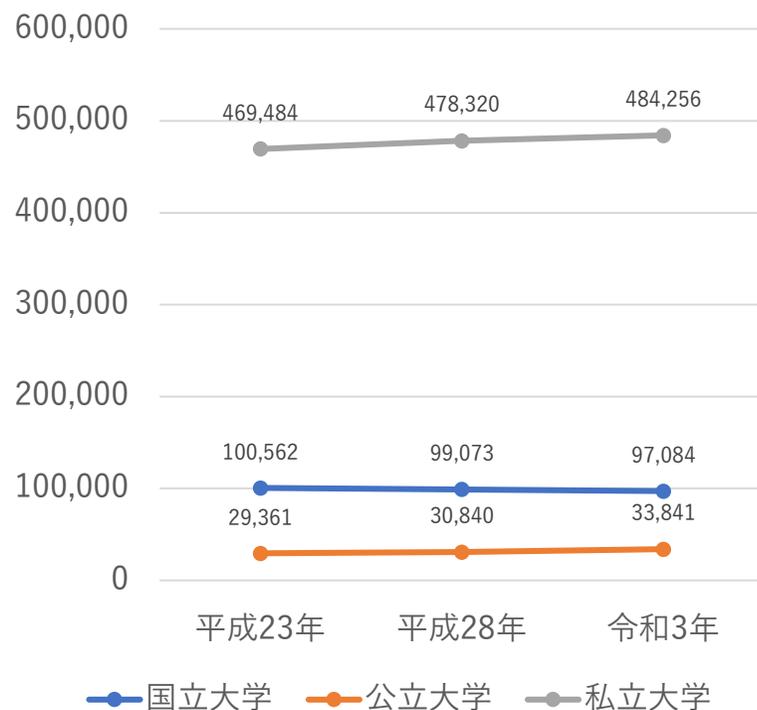
大学入学者数の推移／選抜方式別入学者数の推移

この5年で入学者は公立・私立大で増加。選抜方式では総合型の割合が増加

令和3年を起点に、5年前・10年前の入学者数／選抜方式別入学者数のデータを並べた。10年前から入学者数は国立大学は微減、公立大学は微増、私立大学は増加となる。選抜方式別に見ると、総合型選抜の入学者割合はここ5年で国立は約2倍、公立は約1.8倍、私立大学は約1.4倍に。実数こそ入学者総数と比べて少ないが、総合型選抜の利用が増えていることは確か。

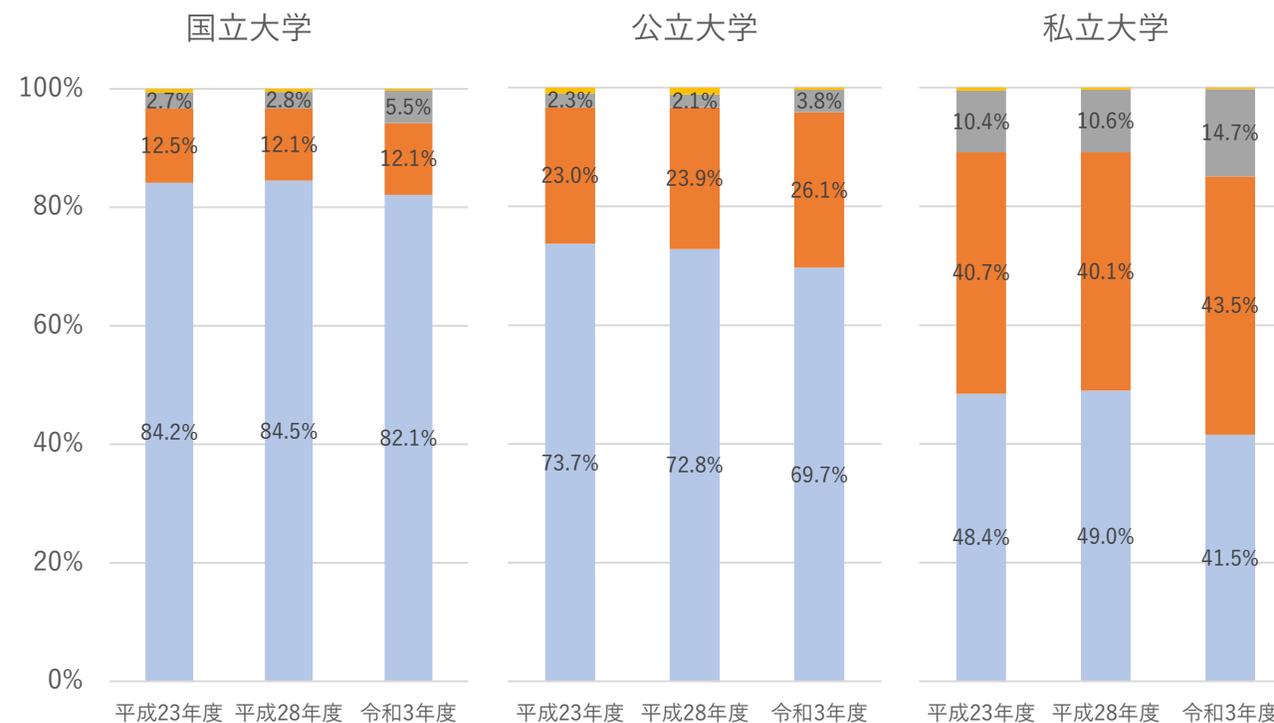
(単位：人)

大学入学者数の推移



選抜方式別入学者数の推移

■一般選抜 ■学校推薦型選抜 ■総合型選抜 ■その他入試

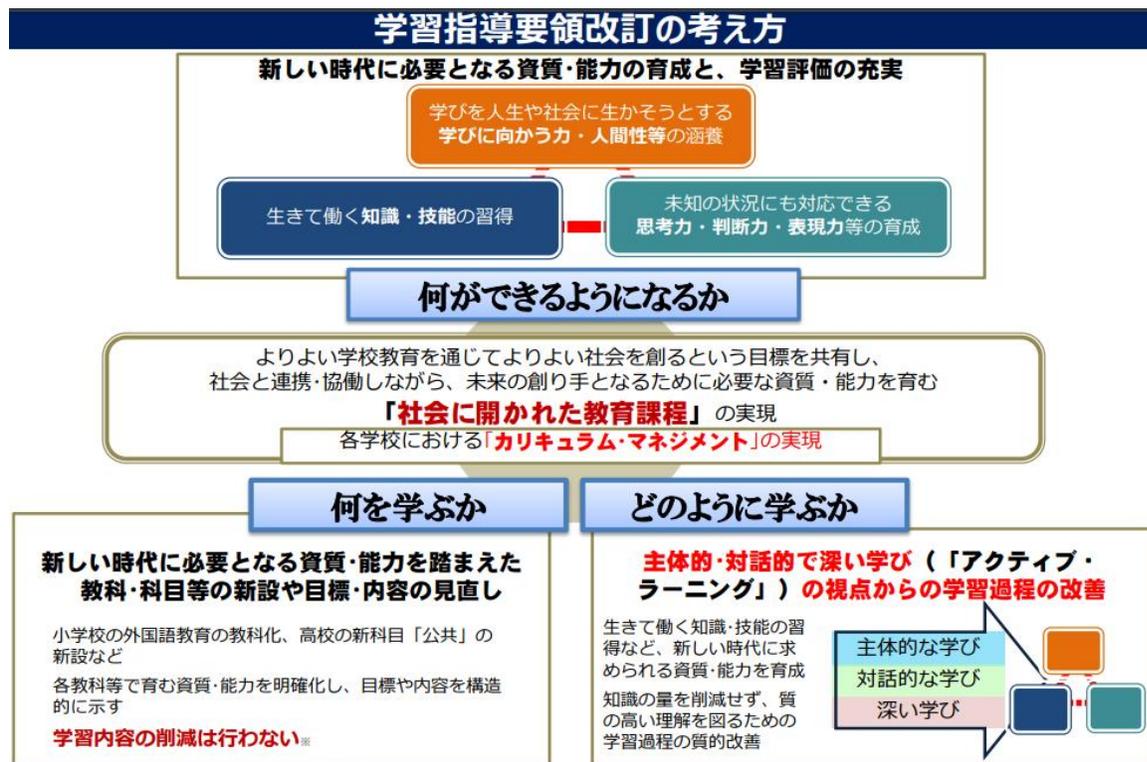


【参照元データ】

・文部科学省「国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」

令和4年度入学生から新学習指導要領がスタート

これまで移行期間とされていた新学習指導要領が、令和4年度高校1年生からスタートする。主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）を取り入れ、「総合的な探究の時間」もいよいよ全校でスタートする。また令和7年度入試の情報は、今年度中に予告・公表を行うことが文部科学省より求められている。



※高校教育については、歴史的な事実的知識の暗記が大学入学選抜に問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

▼文部科学省『「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」及び「令和7年度大学入学選抜実施要項の見直しに係る予告」について（通知）』より抜粋

特に、毎年度通知している「大学入学選抜実施要項」において、「個別学力検査及び大学入学共通テストにおいて課す教科・科目の変更等が入学志願者の準備に大きな影響を及ぼす場合には、2年程度前には予告・公表する」こととしていますが、**新学習指導要領に対応した令和7年度大学入学選抜において課す個別学力検査及び大学入学共通テストの教科・科目の設定等については、入学志願者の準備に大きな影響を及ぼすことが予想されることから、2年程度前を待たず、可能な限り早期に検討し、予告・公表するようお願いいたします。**

【参照元データ】

- ・文部科学省 平成29・30・31年改訂学習指導要領（本文、解説）
- ・文部科学省 「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」及び「令和7年度大学入学選抜実施要項の見直しに係る予告」について（通知）



II. 高校生の活動状況

「進学先校」に対する高校3年間の進路検討アクションまとめ

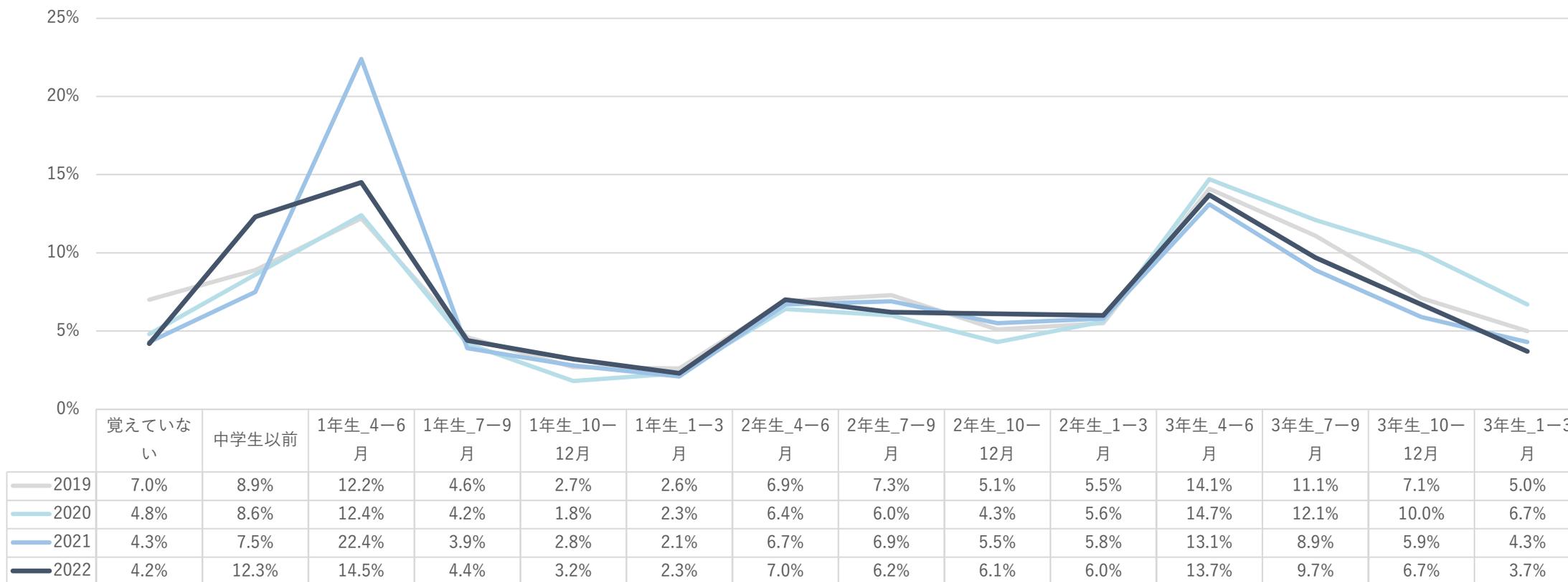
本章の内容を下記表のとおり1枚にまとめた。学校種別（大学／短大／専門／全体）により色分けしている。進路検討アクション（認知／資料請求／イベント参加／出願決定）ごとのピーク期を参考にされたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	【大学】認知 最多時期											
2年生	【専門】認知 第2ピーク			【短大】認知 第2ピーク						【全体】認知 約66%認知済み		
3年生	【大学】認知 第2ピーク			【全体】認知 約90%認知済み								
	【短大・専門】認知 最多時期			【全体】イベント参加 最多時期								
	【全体】資料請求 最多時期			【全体】出願決定 最多時期			【全体】出願決定 約85%決定済み					
	【専門】出願決定 第2ピーク											

最も認知時期が多いのは2年連続で「1年生4～6月」となる

進学する学校を知った時期の調査。2022年3月卒は「1年生4～6月」「3年生4～6月」「中学生以前」の順に回答割合が高い。2021年3月卒の「1年生4～6月」回答割合のみ特に高いが、これを除くと2022年3月卒は過去と比べ早期認知の傾向がやや強い様子が伺える。「3年生4～6月」にピークがあるのはどの年度でも同様。ただし直近2年は「1年生4～6月」が最も高い回答割合。

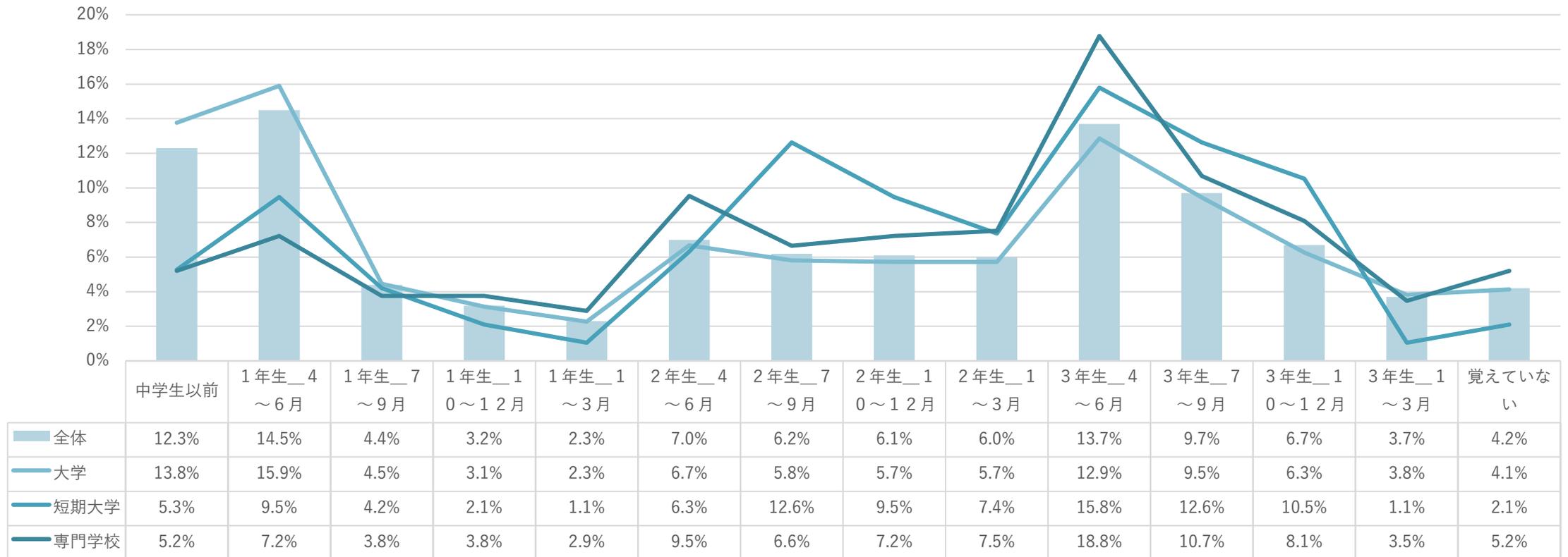
進学する学校を知った時期



進学先「大学」の認知は早期傾向。「短大」「専門」は「3年4～6月」が最多

進学する学校を知った時期を学校種別ごとに集計。回答最多は、大学「1年生4～6月」(15.9%)、短期大学「3年生4～6月」(15.8%)、専門学校「3年生4～6月」(18.8%)となった。折れ線グラフの山を見ると、大学は「1年生4～6月」「3年生4～6月」の2つの山があるのに対し、短大・専門学校は加えて「2年生4～6月」や「2年生7～9月」にも山があることが見て取れる。

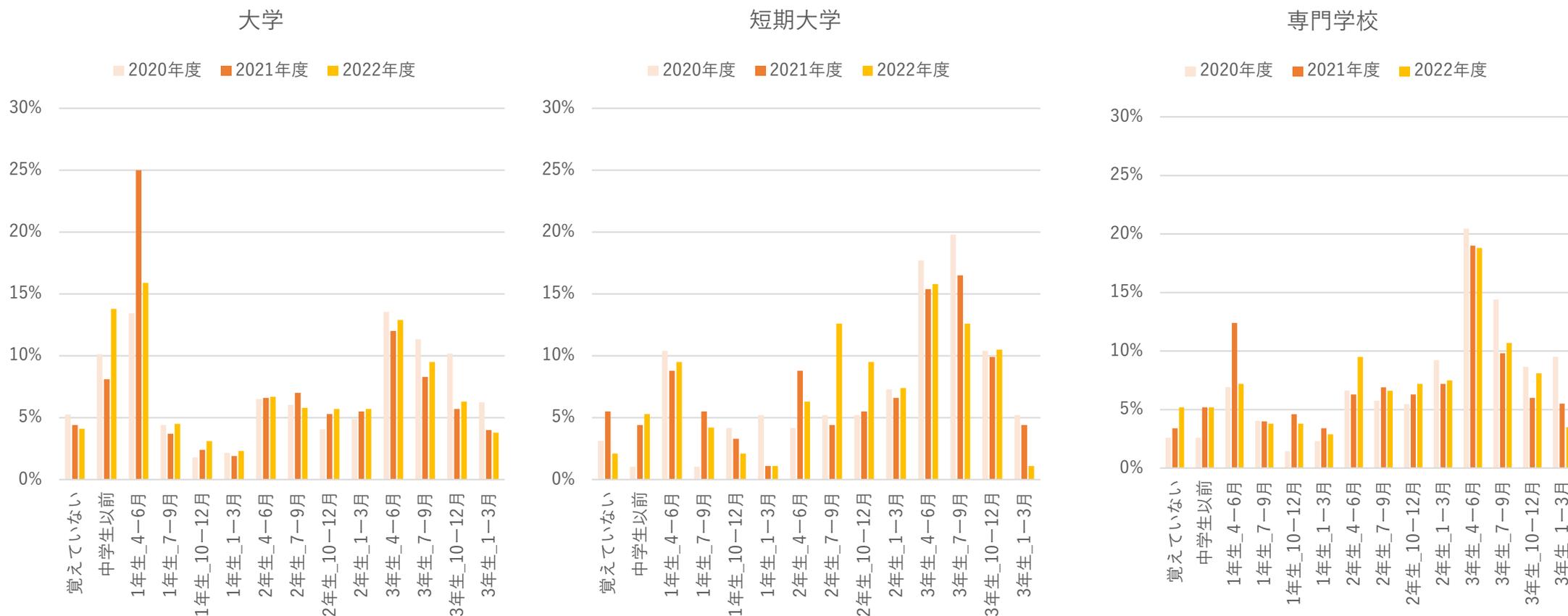
進学する学校を知った時期



【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

「3年生4～6月」の回答割合は学校種別・調査年度を問わず高い

年度比較を学校種別ごとに行うと、大学では「1年生4～6月」の回答が2021年度のみ突出している様子が見られる。また大学の「中学生以前」回答は2022年度のみが突出。他方、短大では「2年生7～9月」、専門は「2年生4～6月」が、それぞれ2022年3月卒の回答のみが突出していた。その他の時期においては年度ごとに大きな差は見られなかった。



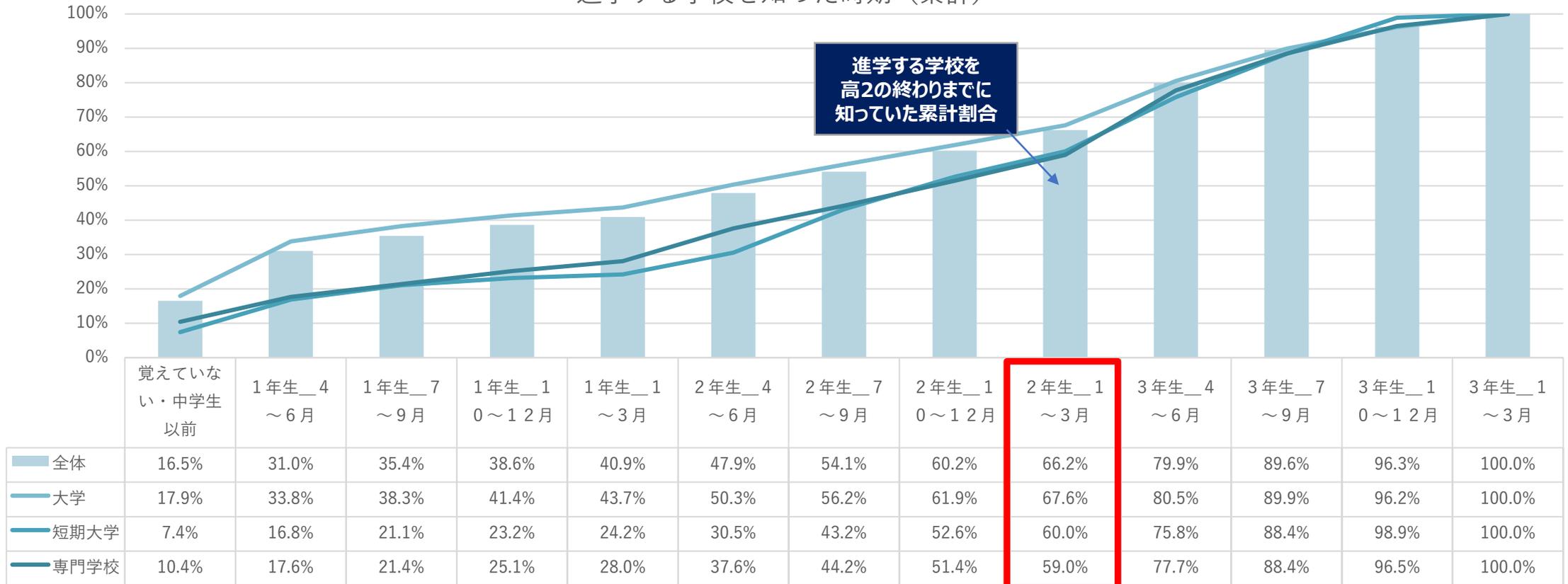
【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2020/2021/2022

進学先校の「認知時期」 (累計)

2年生が終わる頃には約66%が進学先校を認知済み

進学する学校を知った時期を時期順に累計で表した。大学は「1年生4～6月」時点で累計33.8%と、短大・専門に比べて高い。1年生が終わる頃には43.7%が既に進学先校を認知。一方で短大・専門は30%に届かず、出足に差が開いている。短大・専門は2年生時に認知が進み、2年生終了時には全体66.2%で学校種別ごとの差が縮まる。「3年生4～6月」に更に進捗し、全体約80%となる。

進学する学校を知った時期 (累計)

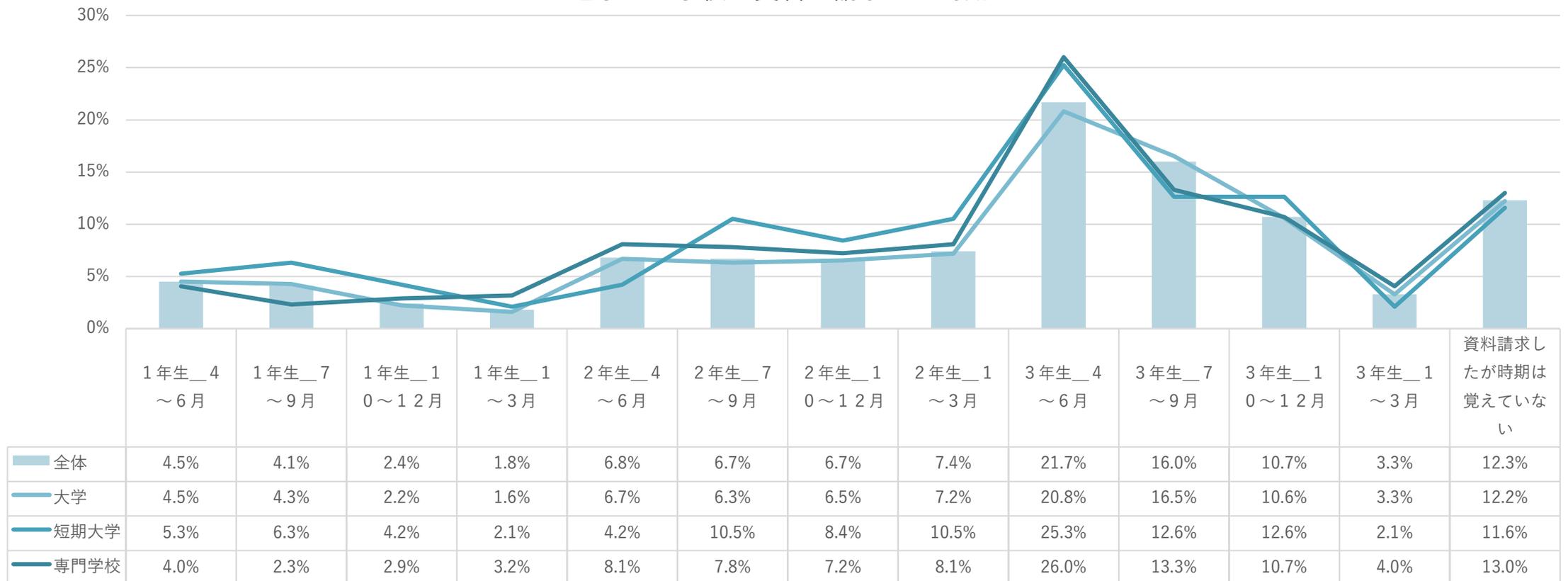


【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

資料請求時期は「3年生4～6月」が最多

進学する学校へ資料を請求した時期については、「3年生4～6月」(全体21.7%)が最も高い割合となった。これは学校種別を問わず同様。また、全体を通した資料請求時期の違いについても、学校種別による違いは見られなかった。

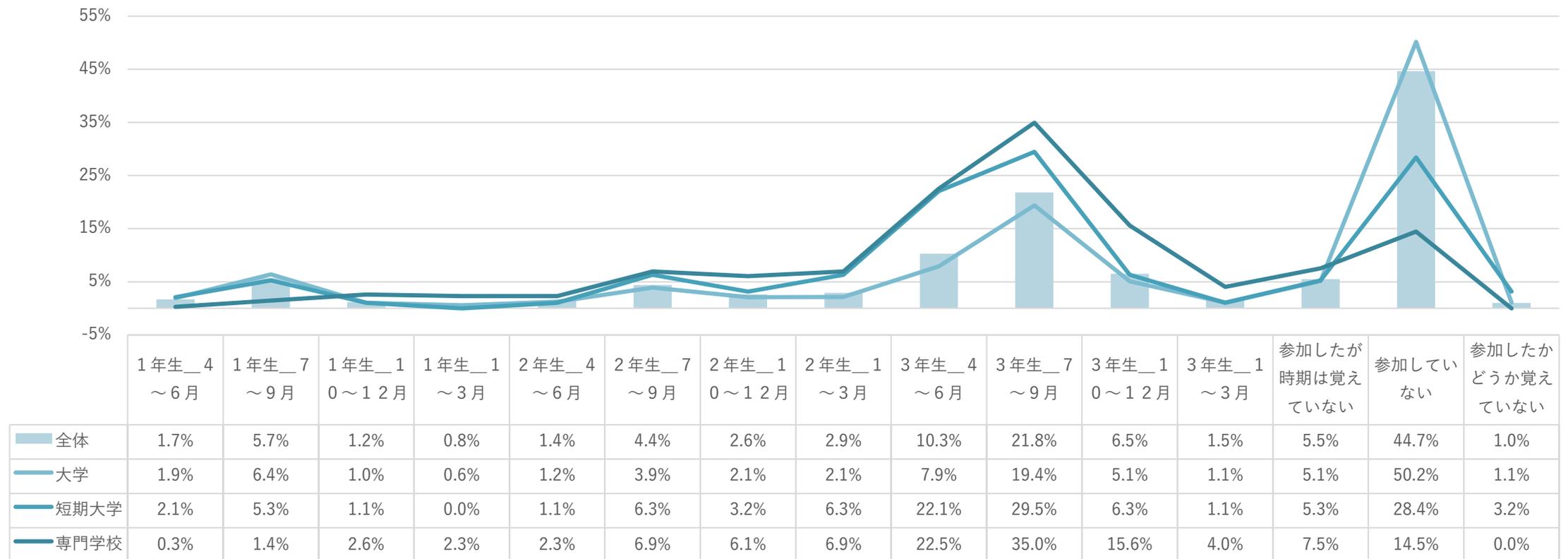
進学する学校へ資料を請求した時期



イベント参加時期は「3年生7～9月」が最多。ただし大学の不参加率は50%

進学する学校のオープンキャンパス等のイベントへの参加時期については、学校種別を問わず「3年生7～9月」(全体21.8%)が最も高い回答割合となった。ただし短期大学・専門学校と比較し、「3年生7～9月」の大学の参加割合は低かった(大学19.4%)。「参加していない」の回答割合でも大学は50.2%に及ぶ。大学進学者の2人に1人はイベント不参加のまま進学する様子が伺える。

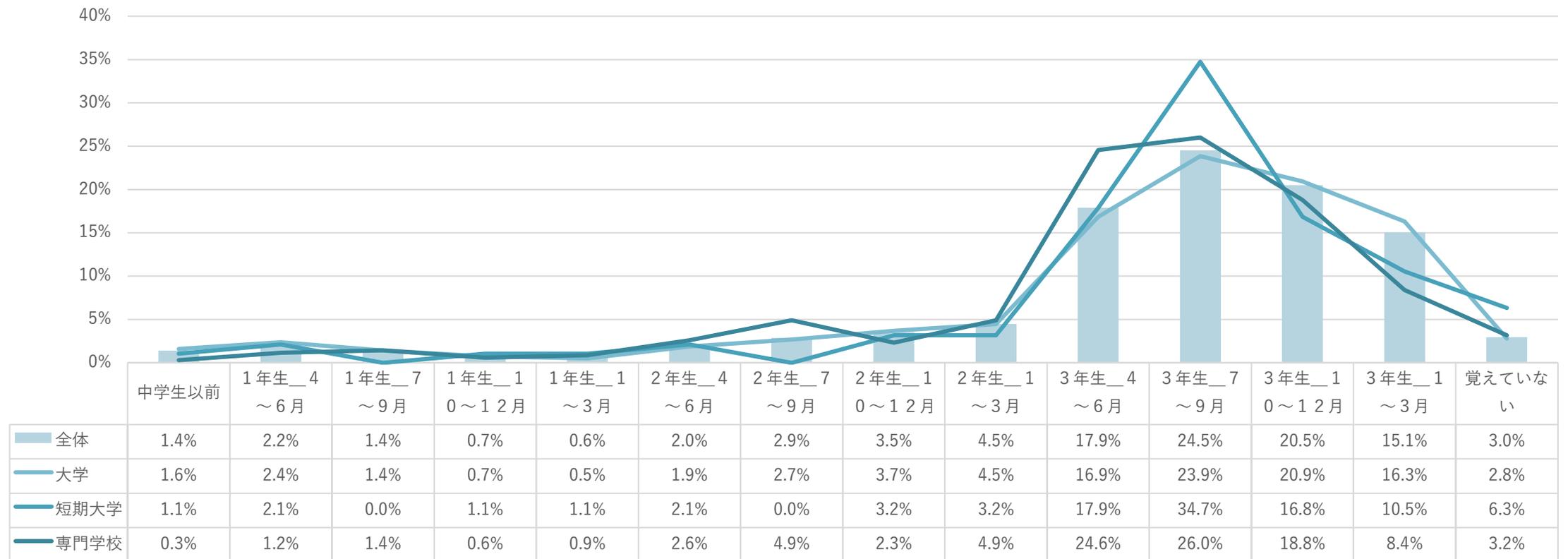
進学する学校のオープンキャンパス等のイベントへの参加時期



出願決定時期は「3年生7～9月」が最多。専門学校は特に動き出しが早い

進学する学校へ出願を決定した時期については、「3年生7～9月」（全体24.5%）がいずれの学校種別でも最も高い割合となった。専門学校は大学・短期大学に比べて「3年生4～6月」の回答割合が高くなる。また割合の数字自体は高くないが、「2年生7～9月」も、グラフ上で小さな山がある。現場の肌感覚通り、専門学校の出願決定時期は早いということが改めて確認できる。

進学する学校へ出願を決定した時期



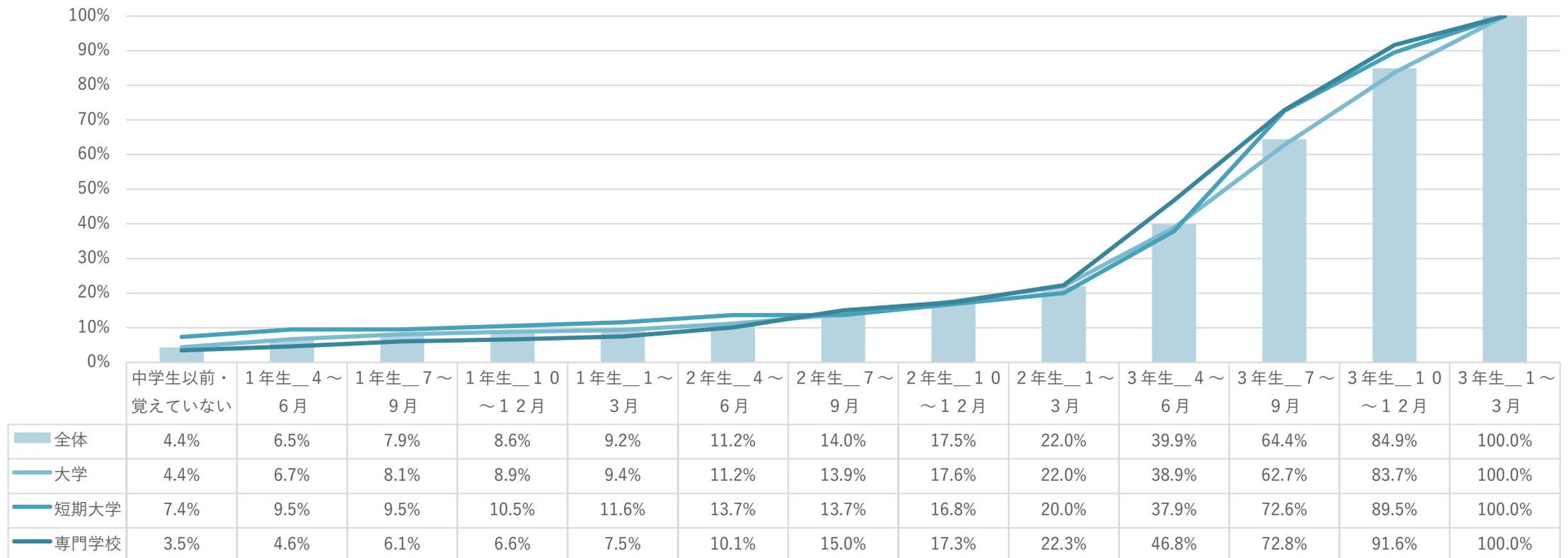
【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

進学先校の「出願決定時期」 (累計)

出願を決定した時期は専門学校、短大、大学の順に早い

出願を決定した時期を時期順に累積で表した。最も進捗があるのは「3年生7～9月」。同時期の学校種別ごとの累計出願決定率は大学62.7%、短期大学72.6%、専門学校72.8%。専門学校、短期大学、大学の順に出願校決定が早い傾向にあることがわかる。

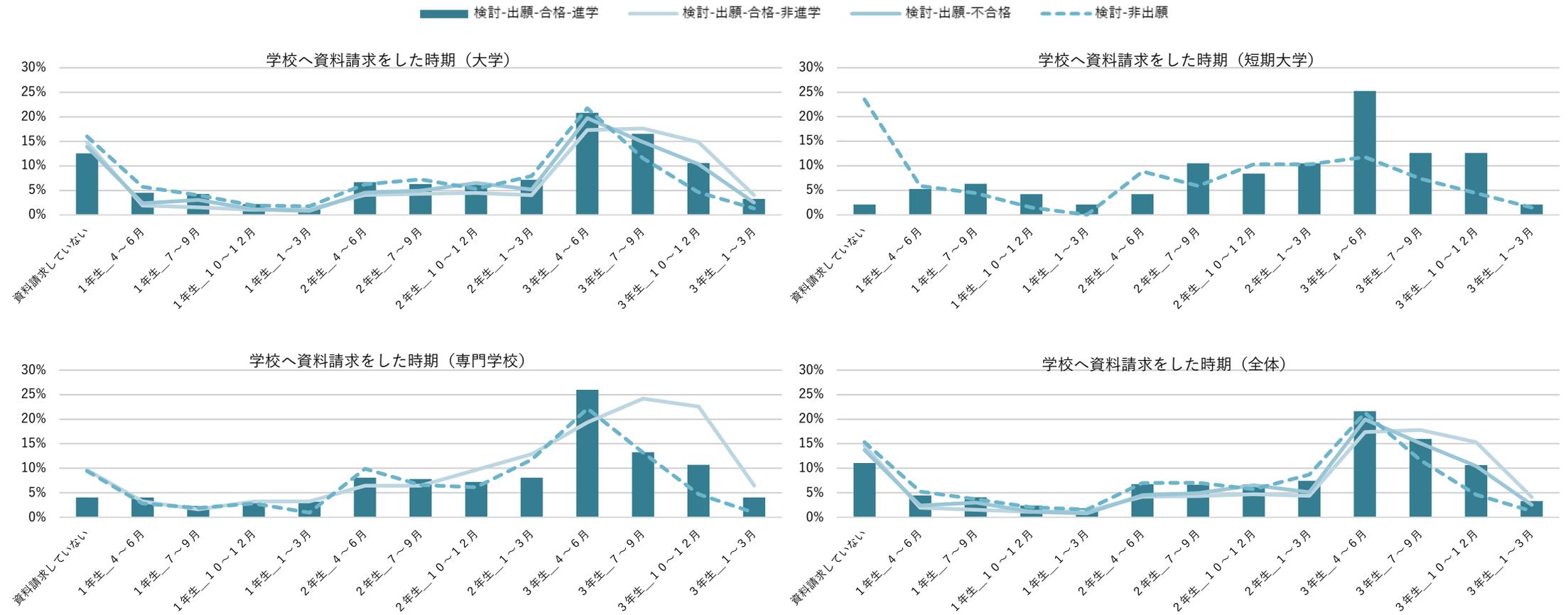
進学する学校へ出願を決定した時期 (累計)



【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

資料請求の「早さ」は出願や進学に大きな影響なしか

資料請求時期を、「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。「1年生4月」～「3年生6月」までは、資料請求をした時期によって「進学した学校」とそれ以外の間に大きな差が見られなかった。3年生の春頃までは、資料請求の「早さ」が「出願／非出願」や「進学／非進学」に及ぼす単純な影響は少ないものと考えられる。



※短大は「検討-出願-合格-非進学」「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。専門学校は「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。

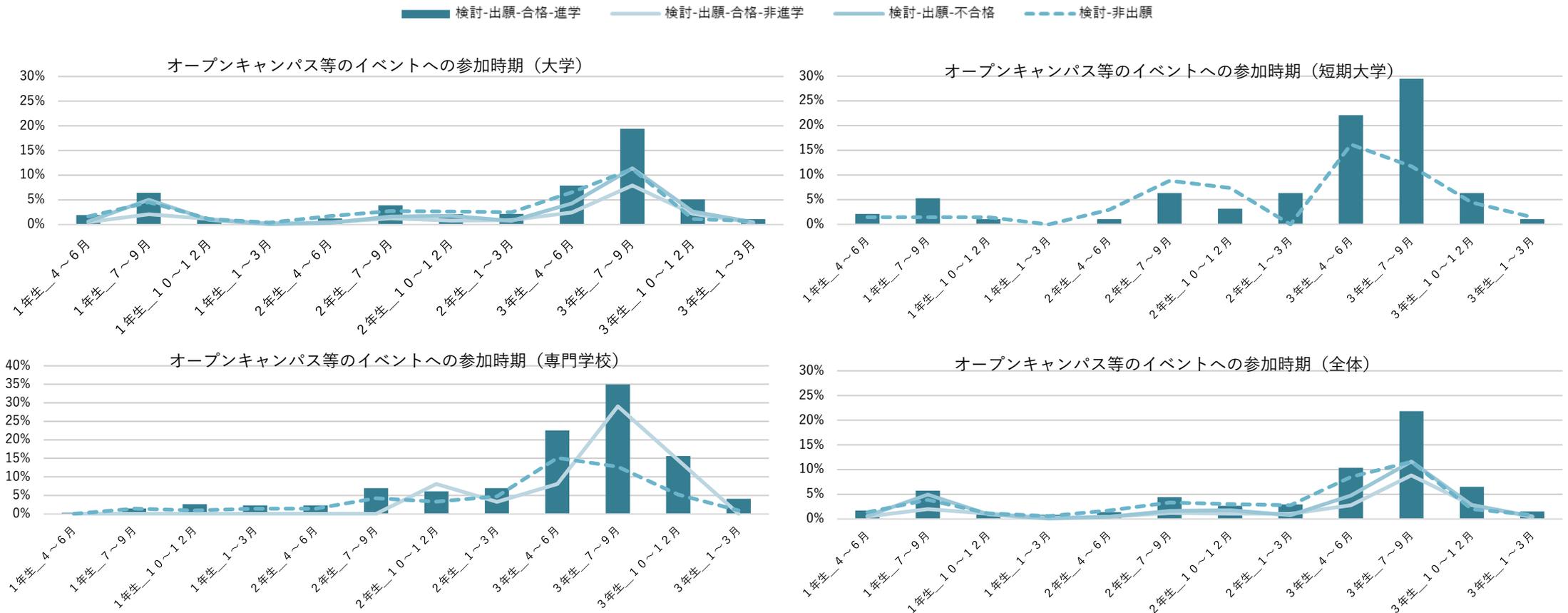
【参照元データ】

・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

「イベント参加時期」 進学先校と非進学校との比較

3年生夏のイベントの重要性が改めて示唆される結果に

オープンキャンパス等のイベントへの参加時期を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。学校種別を問わず「3年生7～9月」において「進学した学校」とそれ以外とで大きな差が見られ、3年生夏のイベントの重要性が改めて示唆されたといえる。また1,2年生時のイベント参加割合は、「進学した学校」とそれ以外とで大きな差は見られない。

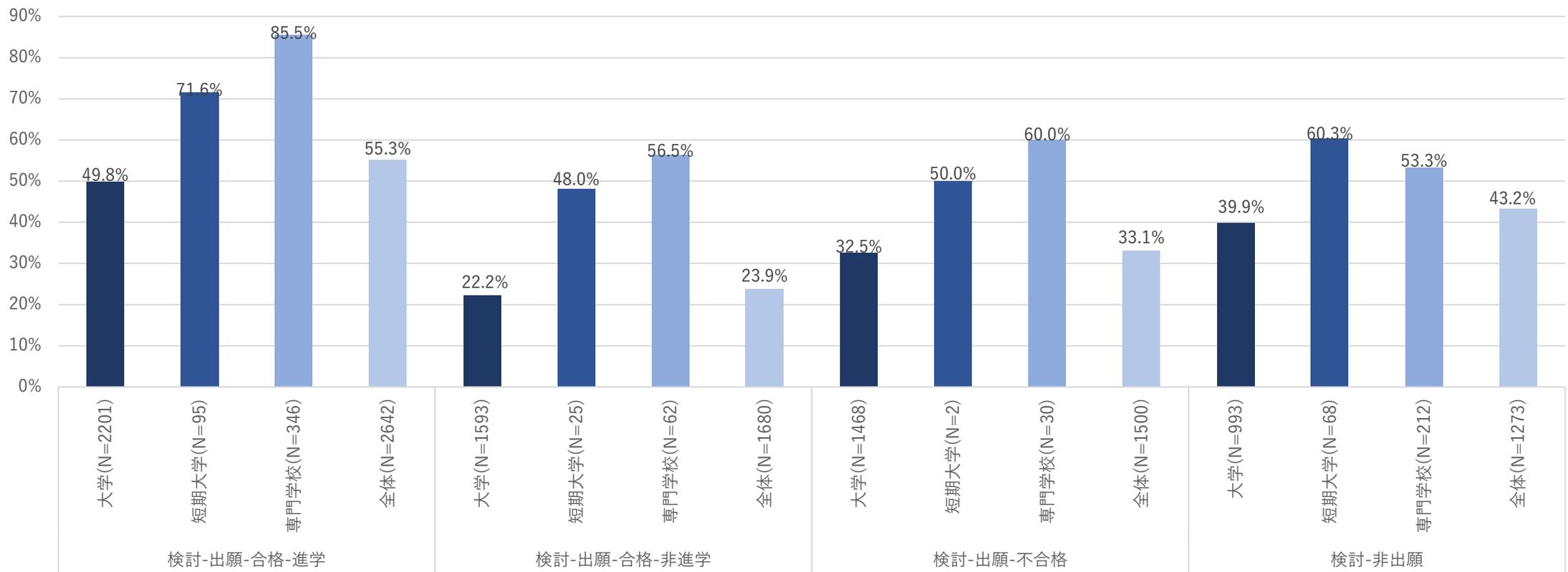


※短大は「検討-出願-合格-非進学」「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。専門学校は「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。

進学先校のイベント参加率は専門学校は85%。一方大学は半数を切る

オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。専門学校では、「進学した学校」のイベント参加割合は85%を超える一方、非進学校のイベント参加割合は50~60%と差が開いた。短大は「進学した学校」の参加割合は約70%と高いが、非進学校との差はやや小さい。大学は「進学した学校」ですら、参加割合が半数を切る結果に。

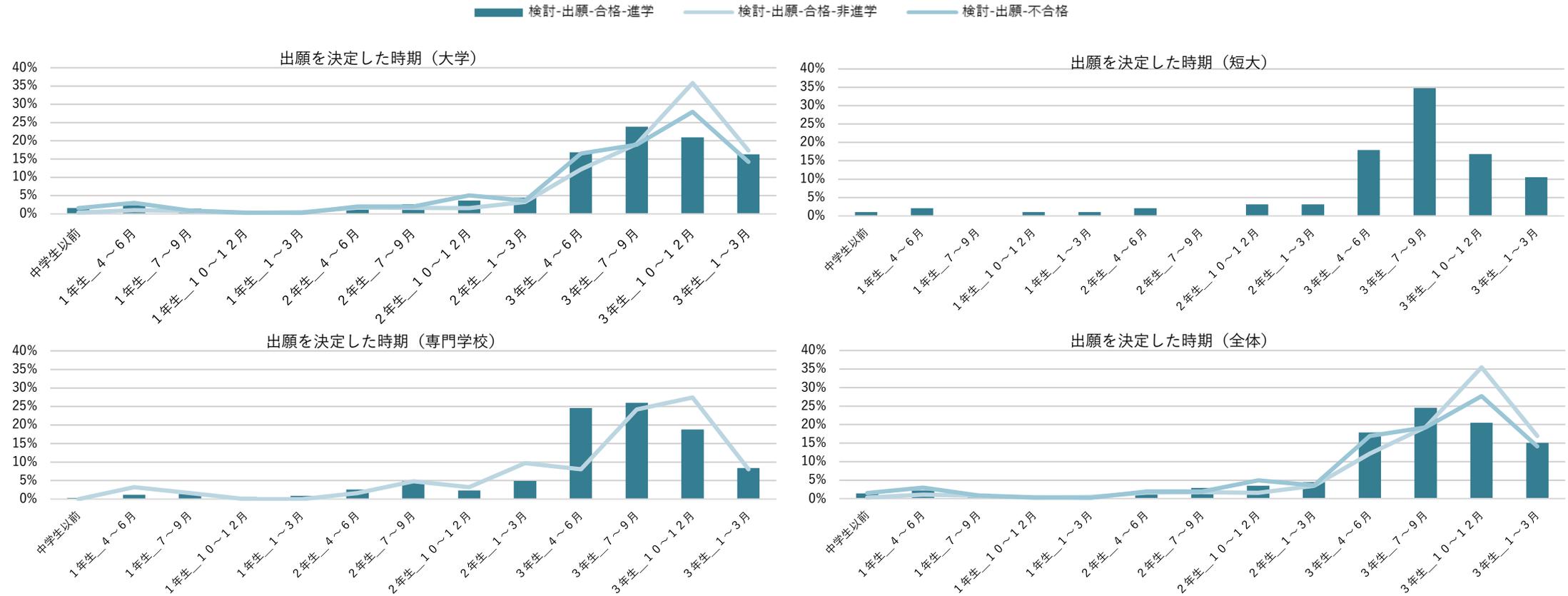
オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合



【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

3年生秋に出願を決定する学校には非進学/不合格の傾向が優位か

出願を決定した時期を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。大学は「合格-非進学」校の折れ線グラフで「3年生10-12月」に大きな山がある。やはり滑り止め校等はこの時期に決まる傾向か。専門学校でも同様の傾向が見られる。また大学の「出願-不合格」校も同時期にグラフの山があり、出願決定が遅ければ対策が遅れ、そもそも合格出来ないという様子も伺える。



※短大は「検討-出願-合格-非進学」「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。専門学校は「検討-出願-不合格」はN数が少ないため非表示。



III.学校選びに関する意識

重視する傾向がさらに強まる「学びの内容」

志望校選びの際「重視するポイント」は、例年と変わらず「学びの内容」がトップ。

コロナ影響で「学びの内容」をさらに重視するという声も聞かれる。

さらに「取れる資格」も重視傾向が強まっている。

それは生徒のみならず保護者も同じ意見だ。

一方、「就職率の高さ」は下降気味でコロナ影響で「知名度」も重視しなくなった声も。

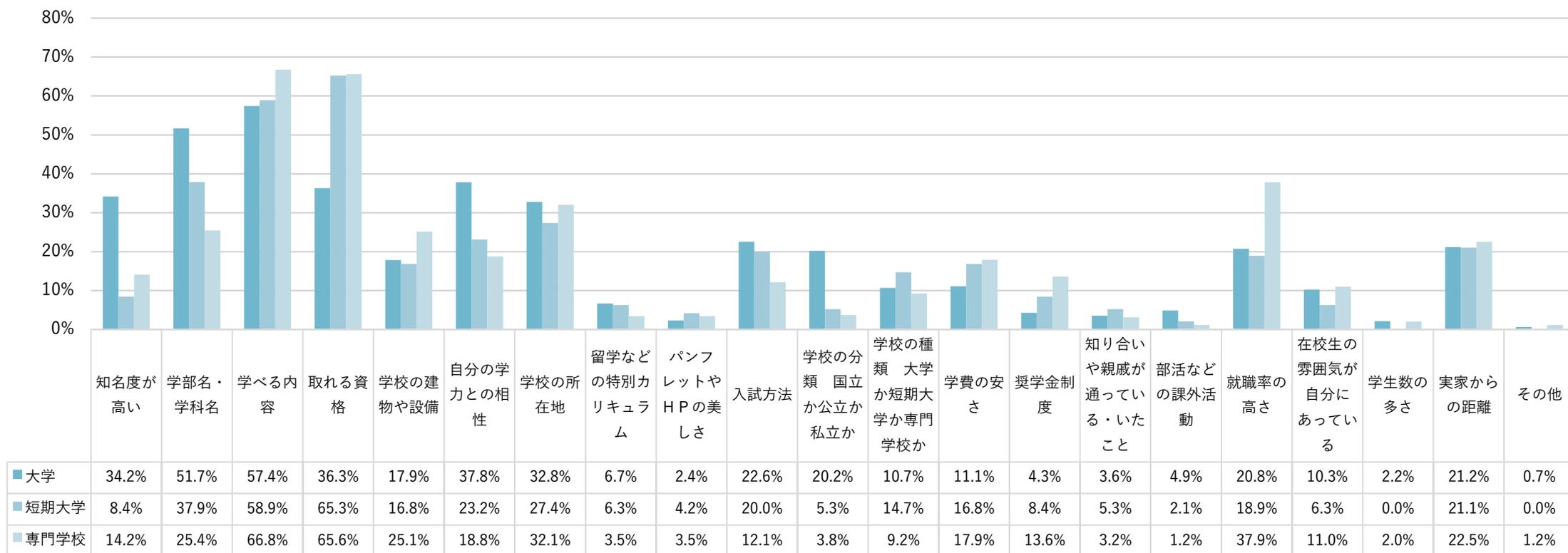
変化が激しい時代ということを知覚しているのか、
自分自身の力を高めて社会へ出るための「ステップ」として、
進学先を深く検討している様子が垣間見れる結果となった。

志望校選びの際「重視するポイント」

大学・専門進学者の1位は「学べる内容」。短大1位は「取れる資格」

大学・専門学校では「学べる内容」(大学57.4%、専門学校66.8%)が前年同様トップとなった。短期大学では前年トップは「学べる内容」だったが、今年は「取れる資格」(65.3%)がトップの項目となった。また「取れる資格」は専門学校でも回答割合が高く(65.6%)、1位と僅差。

志望校選びの際「重視するポイント」

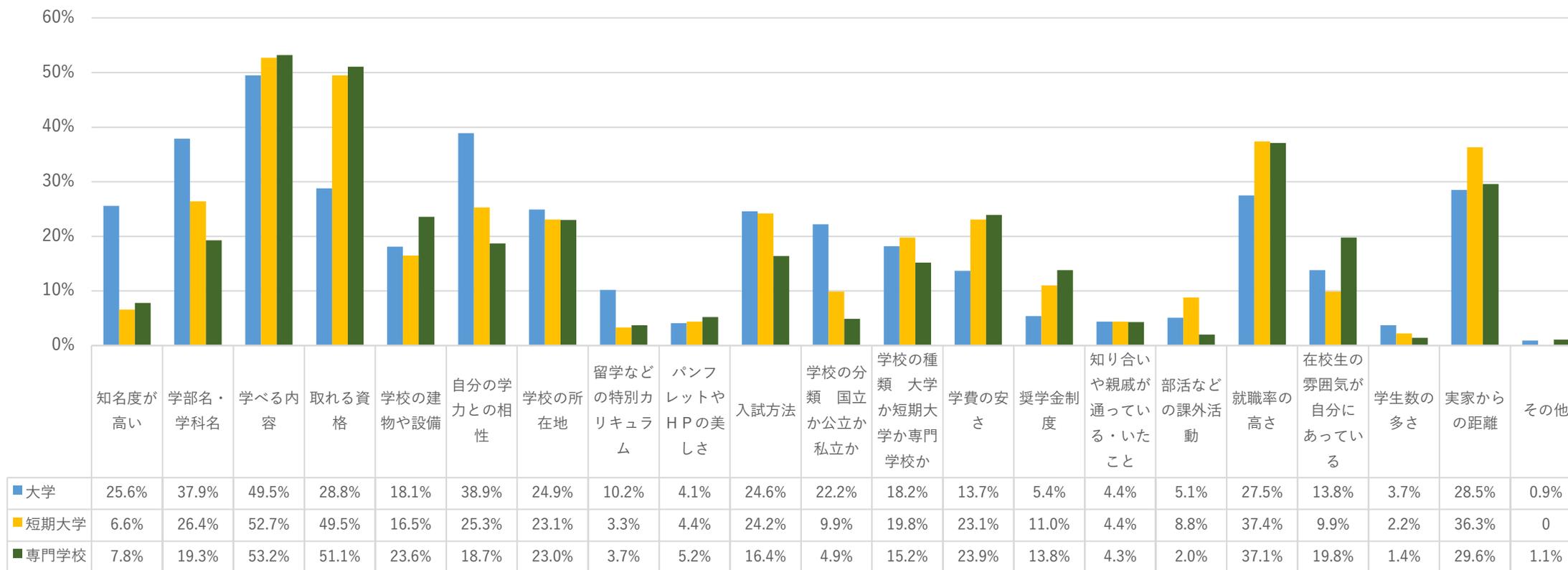


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2022

「学べる内容」「取れる資格」などを重視する傾向は変わらず

前年比較の参考に、「2021年3月卒」対象調査の結果を掲載する（2021年度入試総括に掲載したもの）。大学、短大、専門いずれも「学べる内容」が1位だった。短大・専門で「取れる資格」の回答割合が高いのは2022年度進学トレンド総括と同傾向。「実家からの距離」の回答割合が高いが、2022年度進学トレンド総括においてはやや落ち着いている。

志望校選びの際「重視するポイント」

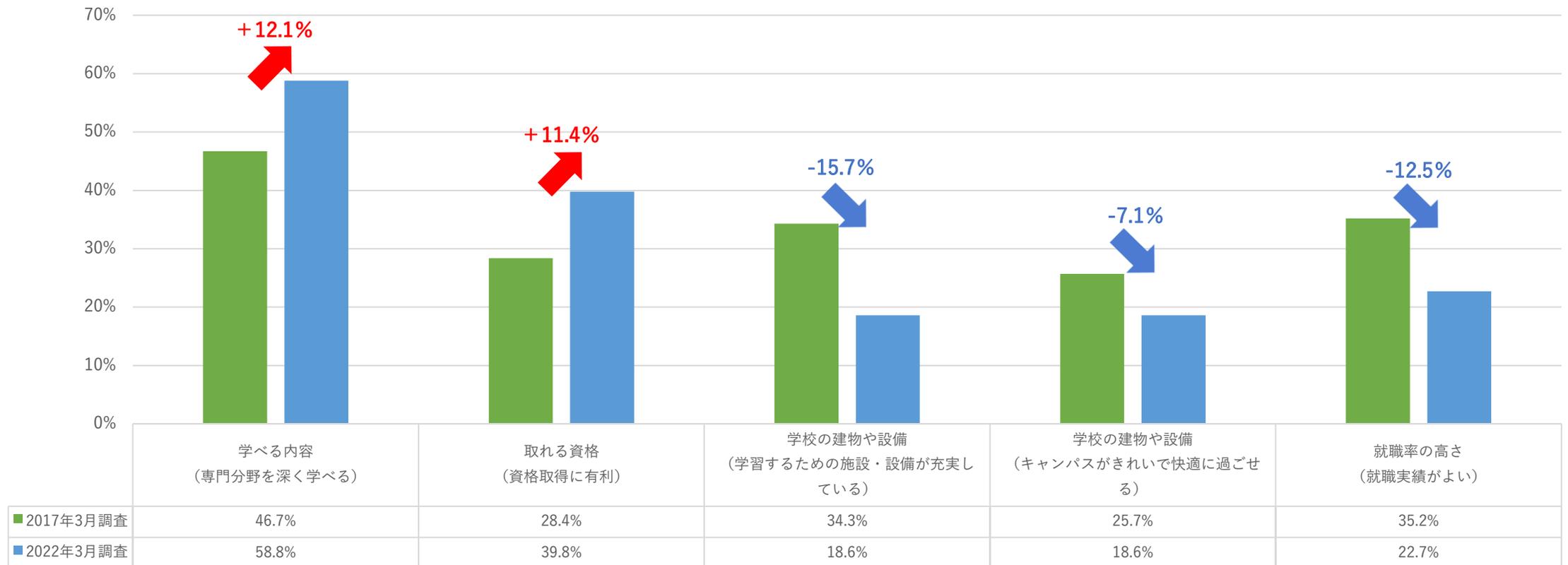


【参照元データ】
・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

5年前と比べ「就職率の高さ」の重視割合は大幅低下

更なる比較参考として「2017年3月卒」対象調査の結果から、この5年間の傾向変化を考察する。一部設問文言が変わっているものがあるが、「2022年3月卒」と「2017年3月卒」の回答割合の差が大きい項目を掲載した。回答割合の差が大きいものは「増加」が「学べる内容」「取れる資格」、「減少」は「就職率の高さ」「学校の建物や設備」となった。

志望校選びの際「重視するポイント」

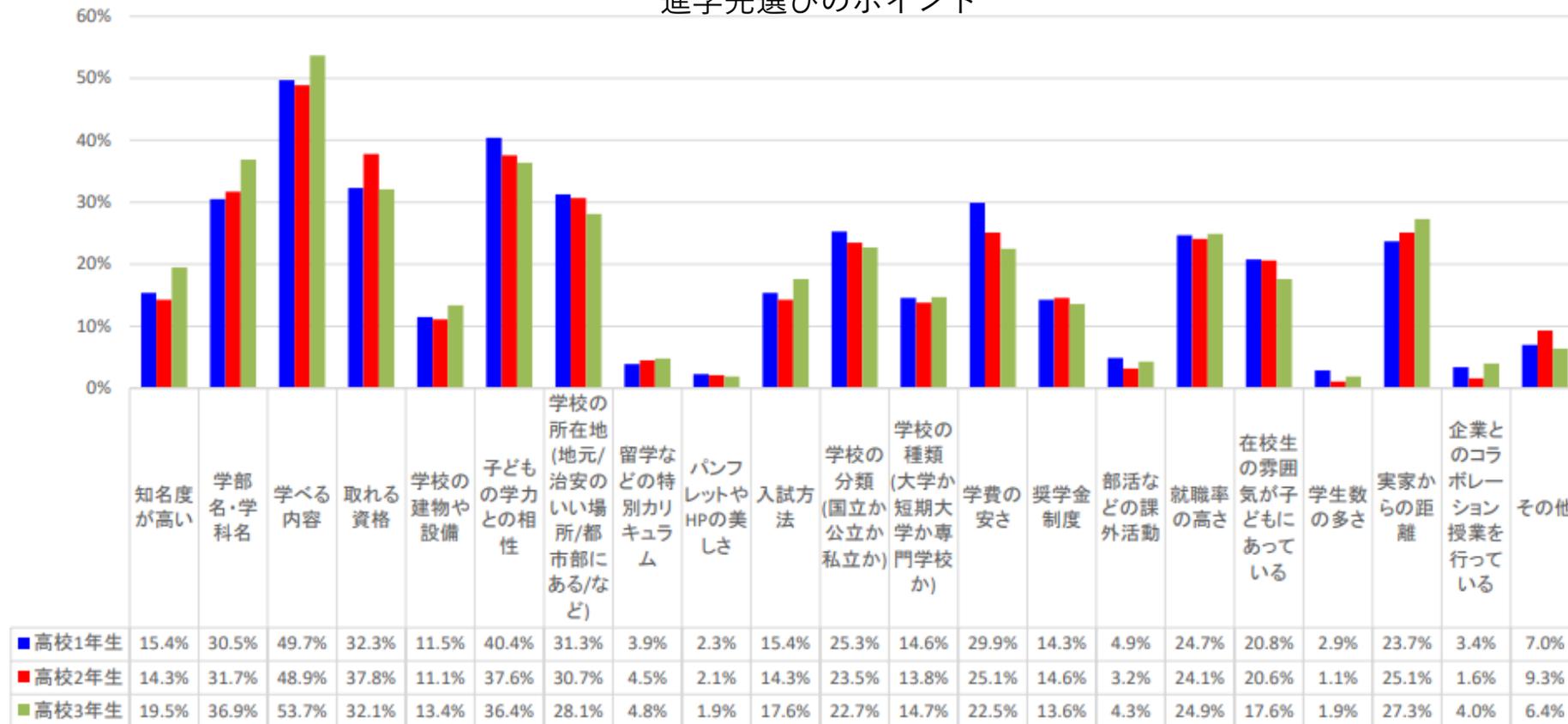


※項目名の () 内は2017年3月調査時の設問文言

保護者も生徒同様に「学べる内容」を重視している

「保護者」対象に進学先選びのポイントを調査した。トップは生徒同様に「学べる内容」。「取れる資格」も生徒同様に高いが、保護者回答ではそれ以上に「子どもの学力との相性」「学部名・学科名」「学校の所在地」などが多く選ばれた。「学校の種類（大学・短大・専門）」と回答した割合は、子どもの学年を問わず15%に届かなかった。

進学先選びのポイント



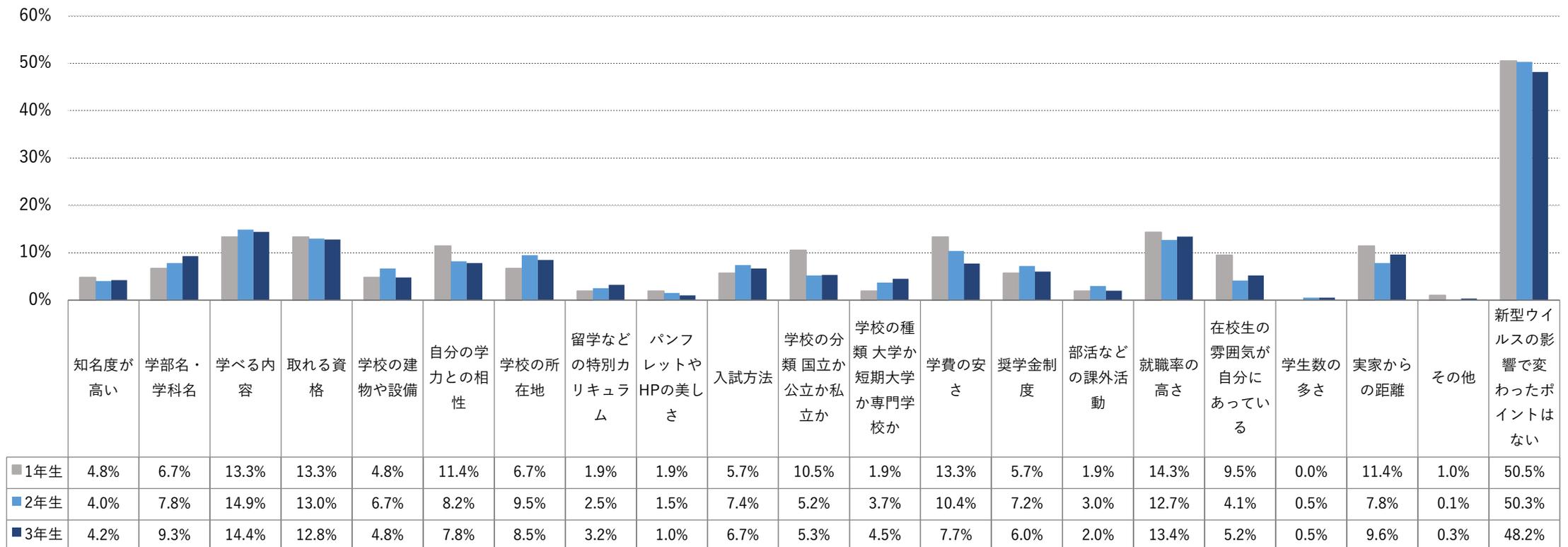
【参照元データ】
・2021年高校生の進路に関する保護者調査

新型コロナウイルスの流行の影響で重視するようになった「学校選びのポイント」

半数は「変わらない」と回答も、「学べる内容」は重視するようになった

新型コロナウイルスの流行の影響で、「学校選びのポイント」に変わったポイントがあるか聞いた。およそ半数は変わったポイントはないと回答したが、「学べる内容」「就職率の高さ」「取れる資格」「実家からの距離」などを重視するようになったという回答があった。

新型コロナウイルスの流行の影響で重視するようになった「学校選びのポイント」



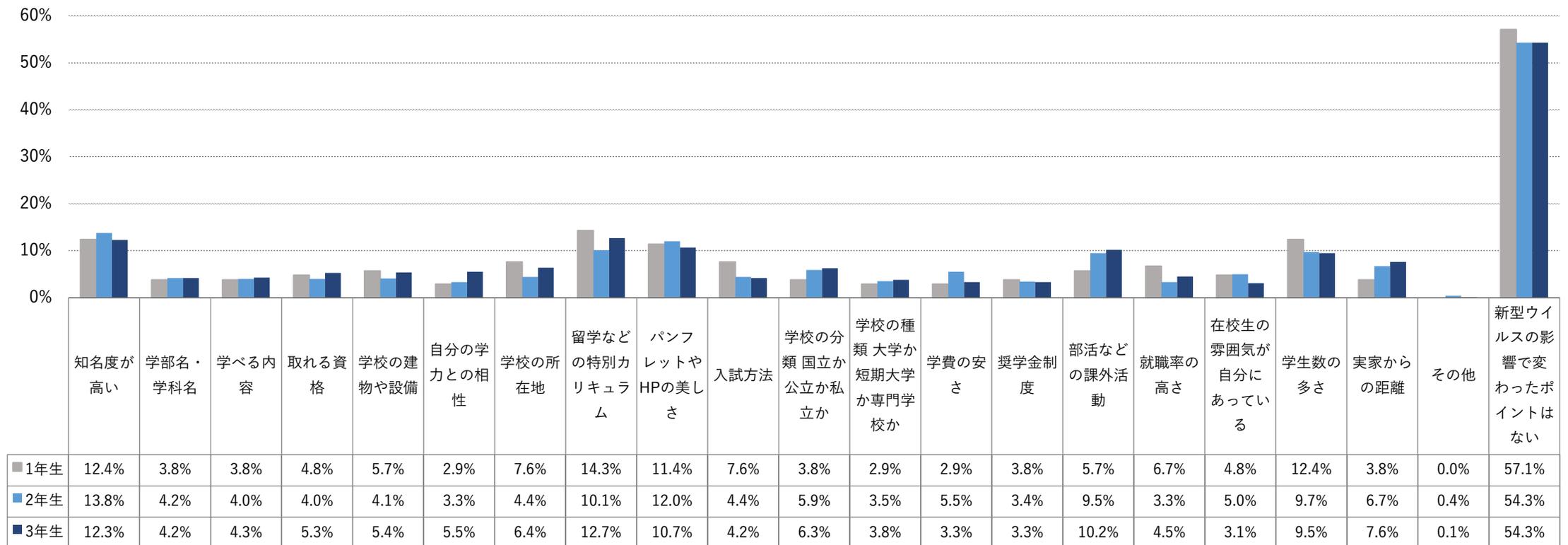
【参照元データ】
・2021年4月実施マイナビ進学会員定期調査

新型コロナウイルスの流行の影響であまり重視しなくなった「学校選びのポイント」

半数は「変わらない」と回答も、目立つのは「知名度」「留学」

重視しなくなったポイントも調査した。「留学などの特別カリキュラム」「知名度の高さ」などが比較的多く選ばれ、コロナ禍の中で当初期待していた「留学」等の特別カリキュラムについては重要度を下げて検討する生徒の姿や、知名度の高さだけで選ばずに保護者の近くで通える学校等にも目を向ける姿が想像できる。

新型コロナウイルスの流行の影響であまり重視しなくなった「学校選びのポイント」

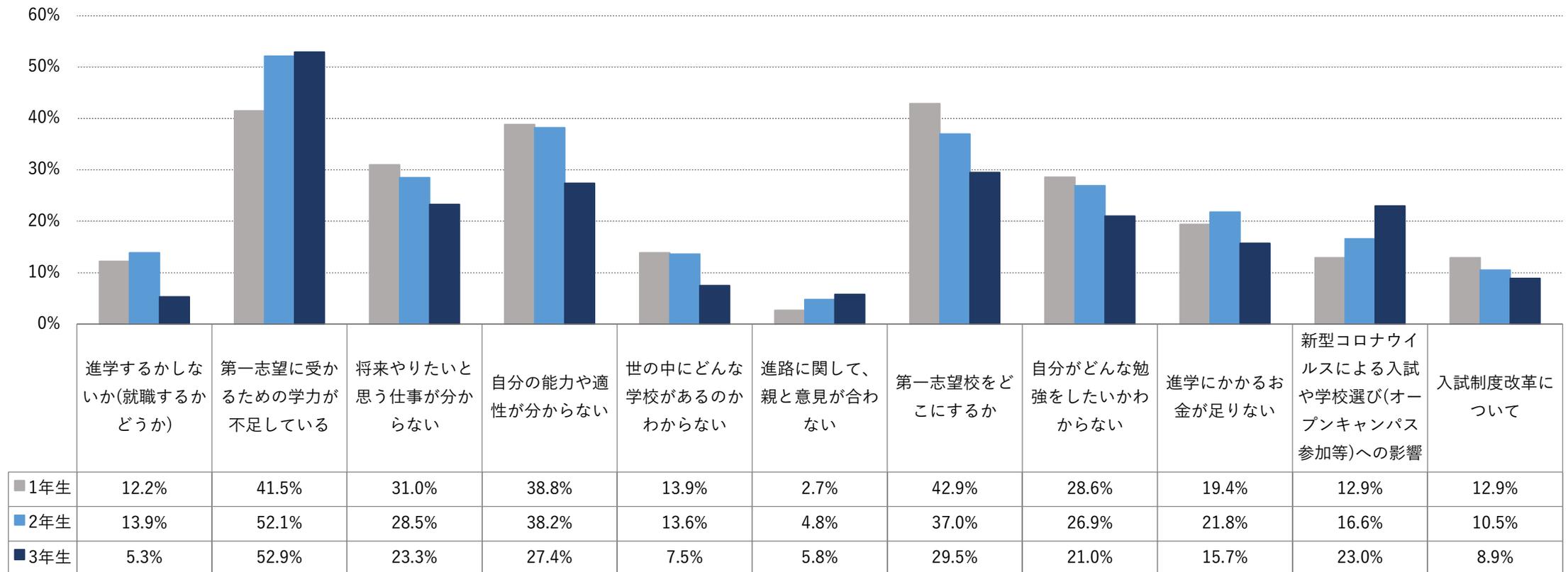


【参照元データ】
・2021年4月実施マイナビ進学会員定期調査

全学年で「学力不足」の悩みが目立つ

進路選択や学校選びについて困りごと・悩みごとを調査した。高校1年生は「第一志望校をどこにするか」、高校2・3年生は「第一志望に受かるための学力が不足している」が最も選ばれた。また、高校3年生は他学年と比較して「新型コロナウイルスによる入試や学校選びへの影響」を選択する割合が高かった。「親と意見が合わない」という悩みは全学年で極めて少なかった。

進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいること



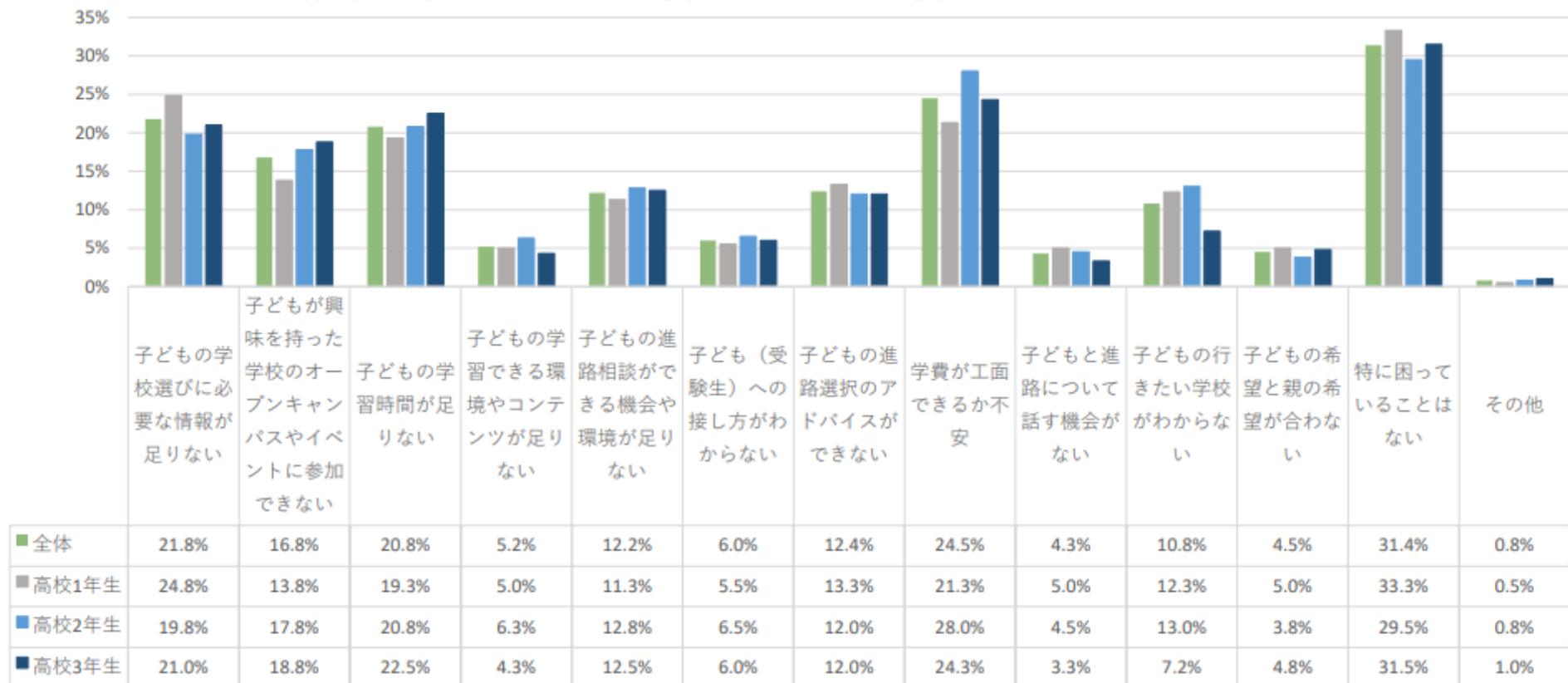
【参照元データ】
・2021年6月実施マイナビ進学会員定期調査

子どもの進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいること【保護者】

約3割が「困りごと無し」。あるのは「学費」「学力」「進路情報」面の悩み

子どもの進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいることを保護者に聞いたところ、「特に困っていることはない」という回答が31.4%、次いで「学費が工面できるか不安」が24.5%となった。また「学校選びに必要な情報が足りない」「子どもの学習時間が足りない」という、進路選択、学力に関する項目も回答割合が高い。きわめて保護者らしい回答となった。

子どもの進路選択や学校選びについて困っていることや悩んでいること

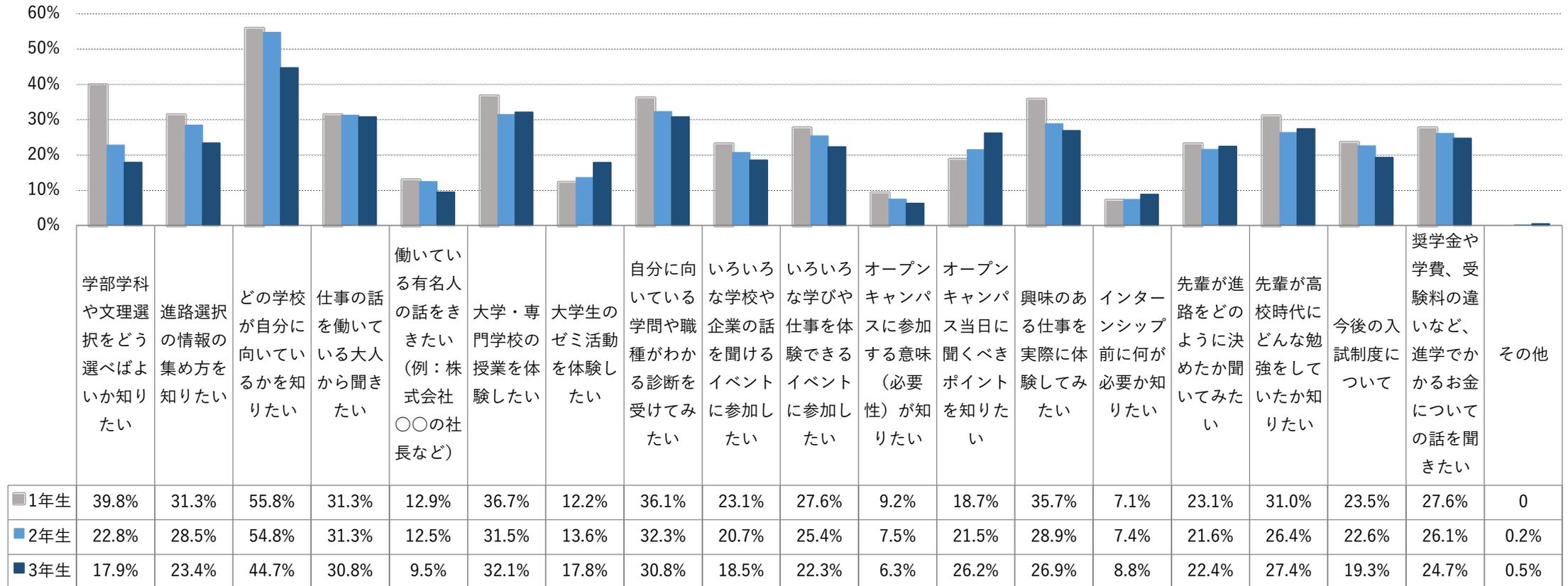


【参照元データ】
・2021年高校生の進路に関する保護者調査

「どの学校が自分に向いているかを知りたい」がトップ回答

「どの学校が自分に向いているかを知りたい」「学部学科や文理選択をどう選べばよいか知りたい」「自分に向いている学問や職業が分かる診断を受けてみたい」などのほか、特に高校1・2年生から「先輩が高校時代にどんな勉強をしていたか知りたい」「興味のある仕事を実際に体験してみたい」が選ばれた。

進路決定のために知りたいこと・学校の授業でやってほしいこと

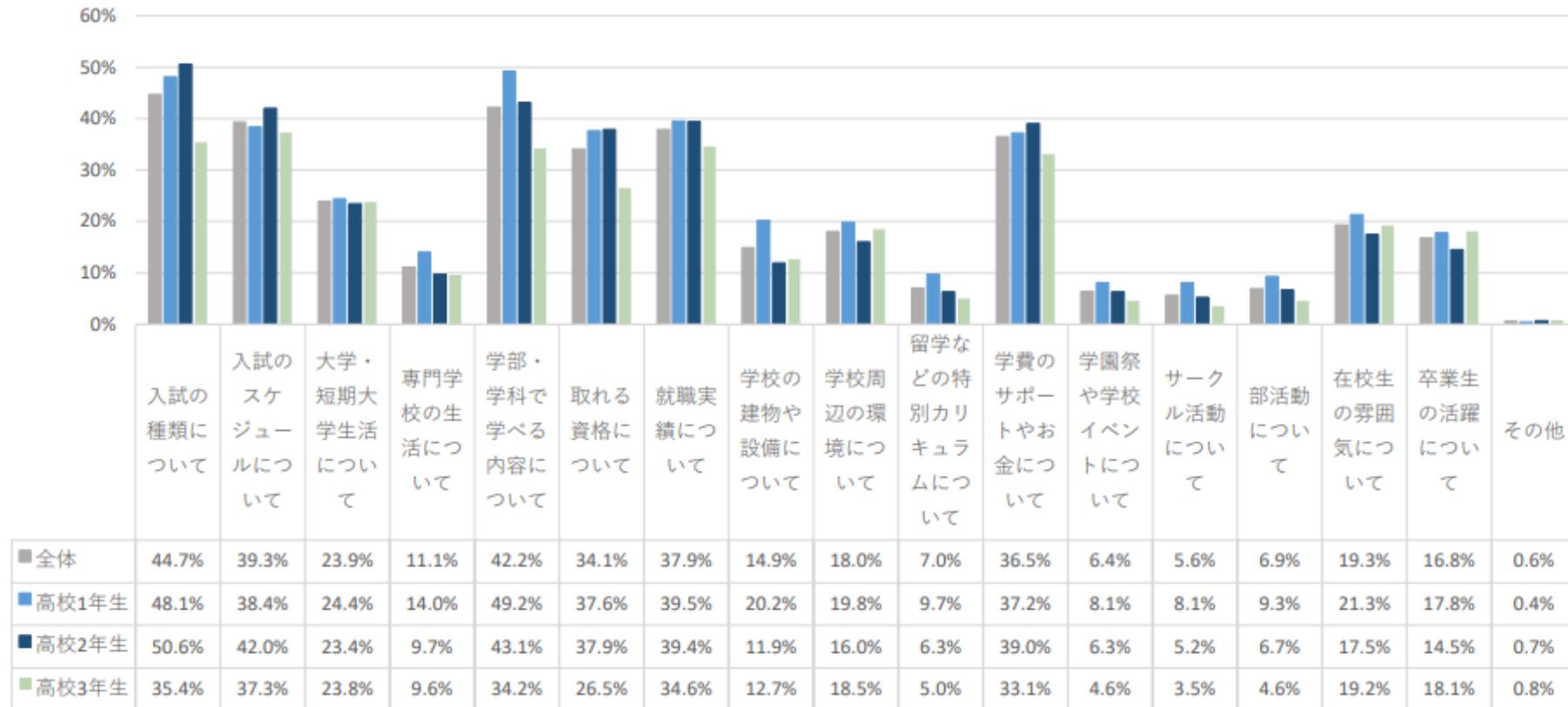


【参照元データ】
・2021年6月実施マイナビ進学会員定期調査

保護者からは「入試の種類」「学べる内容」についての情報が求められる

進路選択において欲しい情報を保護者向けに調査したもの。「入試の種類について」（44.7%）「学部・学科で学べる内容について」（42.2%）の回答割合が高かった。その他にも、各学年の保護者の3割以上が「就職実績について」（37.9%）や「学費のサポートやお金について」（36.5%）などの情報が欲しいと回答した。

子どもの進路選択・学校選びについて、どんな情報が欲しいか



全学年で「学べる内容」がトップに

2022年度進学トレンド総括の分析範囲外だが、参考情報として「オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報」に焦点を当てた調査結果（2022年5月実施）を掲載する。「志望校選びの際『重視するポイント』」でも1位の「学べる内容」が本調査でもトップに。「入試方法」「学費」がオープンキャンパスでは特に知りたい情報のようで、いずれの学年でも上位にランクイン。

オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報＜学年別＞ ※

順位	現高校3年生		現高校2年生		現高校1年生	
	項目	回答割合	項目	回答割合	項目	回答割合
1位	学べる内容	75.2%	学べる内容	77.7%	学べる内容	66.7%
2位	入試方法	55.5%	学校の建物や設備	58.0%	学校の建物や設備	59.6%
3位	取れる資格	55.0%	入試方法	56.7%	取れる資格	50.9%
4位	学校の建物や設備	52.8%	学費	56.7%	入試方法	49.1%
5位	学費	51.0%	取れる資格	54.0%	学費	49.1%
6位	自分の学力との相性	47.7%	在校生の雰囲気	54.0%	在校生の雰囲気	49.1%
7位	学校の所在地や周辺環境	47.2%	自分の学力との相性	51.8%	自分の学力との相性	42.1%
8位	在校生の雰囲気	46.8%	学校の所在地や周辺環境	50.4%	就職率の高さ	40.4%
9位	就職率の高さ	41.6%	就職率の高さ	44.6%	学校の所在地や周辺環境	36.8%
10位	奨学金制度	33.8%	奨学金制度	38.8%	奨学金制度	33.3%
11位	実家からの距離	28.2%	実家からの距離	30.8%	部活などの課外活動	19.3%
12位	部活などの課外活動	24.6%	部活などの課外活動	28.1%	実家からの距離	19.3%
13位	留学などの特別カリキュラム	14.8%	留学などの特別カリキュラム	21.9%	留学などの特別カリキュラム	12.3%
14位	その他	1.1%	その他	1.8%	その他	0.0%

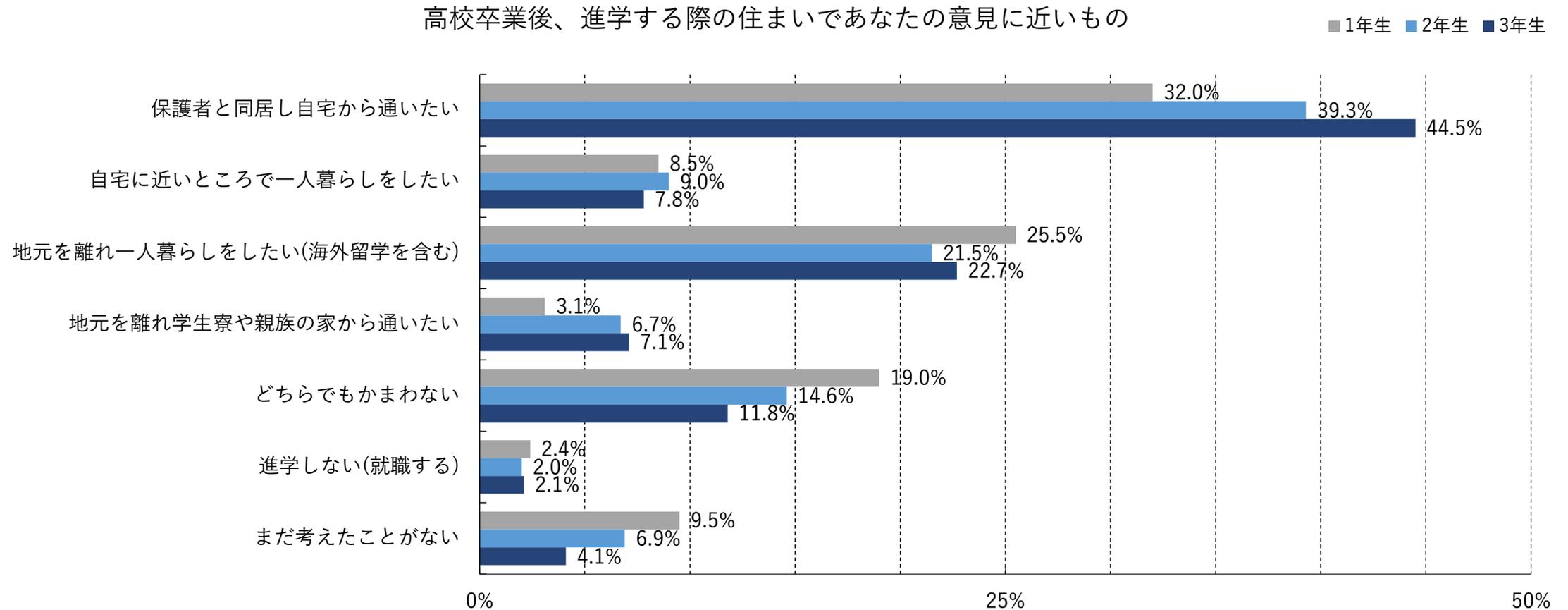
※学年が上がるにつれて順位が高くなるものを色付けした。

【参照元データ】

・2022年5月実施マイナビ進学会員定期調査 ※学年は1年生＝2025年3月卒、2年生＝2024年3月卒、3年生＝2023年3月卒です。ご注意ください。

自宅からの通学を希望する回答がトップ

進学の際の住まいについては、高校3年生の4割が「保護者と同居し自宅から通いたい」と回答した。「地元を離れ一人暮らしをしたい」と回答した割合は、全体の4分の1程度だった。「地元を離れ学生寮や親族の家から通いたい」の回答割合は10%にも満たなかった。

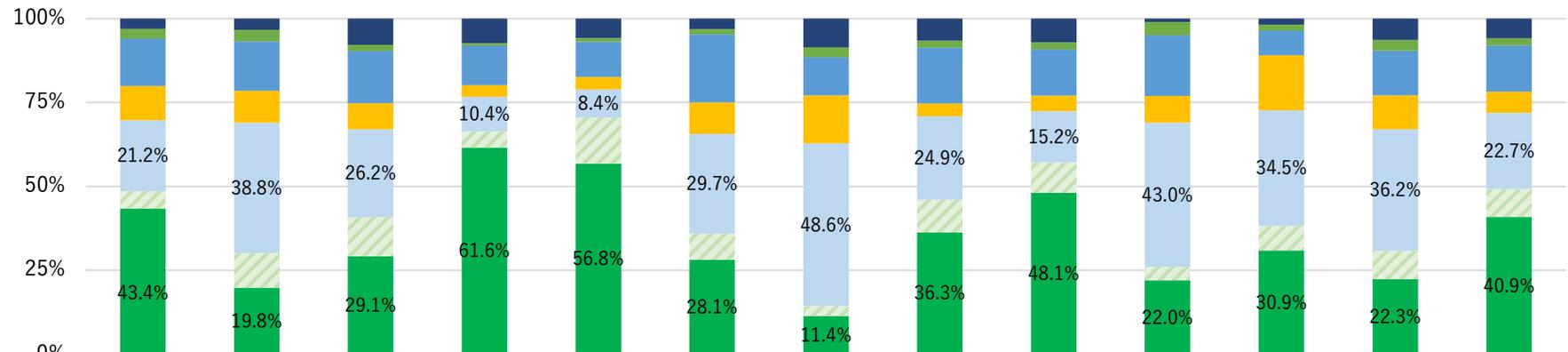


高校卒業後、進学する際の住まいについて（現居住エリア別）

地方在住者は一人暮らし希望が比較的多い傾向。特に北陸・中国

進学する際の住まいについて現居住エリア別にみると東京都や関東、関西は「自宅から通いたい」の回答割合が高く、東北・北陸・中国などは「地元を離れ一人暮らしをしたい（海外留学を含む）」の割合が高いことが分かる。特に北陸は半数近く（48.6%）、中国は4割を超える（43%）人が「地元を離れ一人暮らしをしたい（海外留学を含む）」と回答した。

高校卒業後、進学する際の住まいであなたの意見に近いもの



意見	北海道	東北6県	北関東3県	南関東3県	東京都	甲信越	北陸	東海4県	関西2府4県	中国5県	四国	九州・沖縄	全体
まだ考えたことがない	3.0%	3.4%	7.8%	7.3%	5.8%	3.1%	8.6%	6.6%	7.1%	1.0%	1.8%	6.4%	5.9%
進学しない(就職する)	3.0%	3.4%	1.9%	0.8%	1.1%	1.6%	2.9%	2.1%	2.1%	4.0%	1.8%	3.2%	2.1%
どちらでもかまわない	14.1%	14.7%	15.5%	11.8%	10.5%	20.3%	11.4%	16.6%	13.8%	18.0%	7.3%	13.3%	13.8%
地元を離れ学生寮や親族の家から通いたい	10.1%	9.5%	7.8%	3.4%	3.7%	9.4%	14.3%	3.8%	4.6%	8.0%	16.4%	10.1%	6.3%
地元を離れ一人暮らしをしたい(海外留学を含む)	21.2%	38.8%	26.2%	10.4%	8.4%	29.7%	48.6%	24.9%	15.2%	43.0%	34.5%	36.2%	22.7%
自宅に近いところで一人暮らしをしたい	5.1%	10.3%	11.7%	4.8%	13.7%	7.8%	2.9%	9.7%	9.2%	4.0%	7.3%	8.5%	8.3%
保護者と同居し自宅から通いたい	43.4%	19.8%	29.1%	61.6%	56.8%	28.1%	11.4%	36.3%	48.1%	22.0%	30.9%	22.3%	40.9%

※四捨五入の都合で構成比合計が100%にならない場合があります。

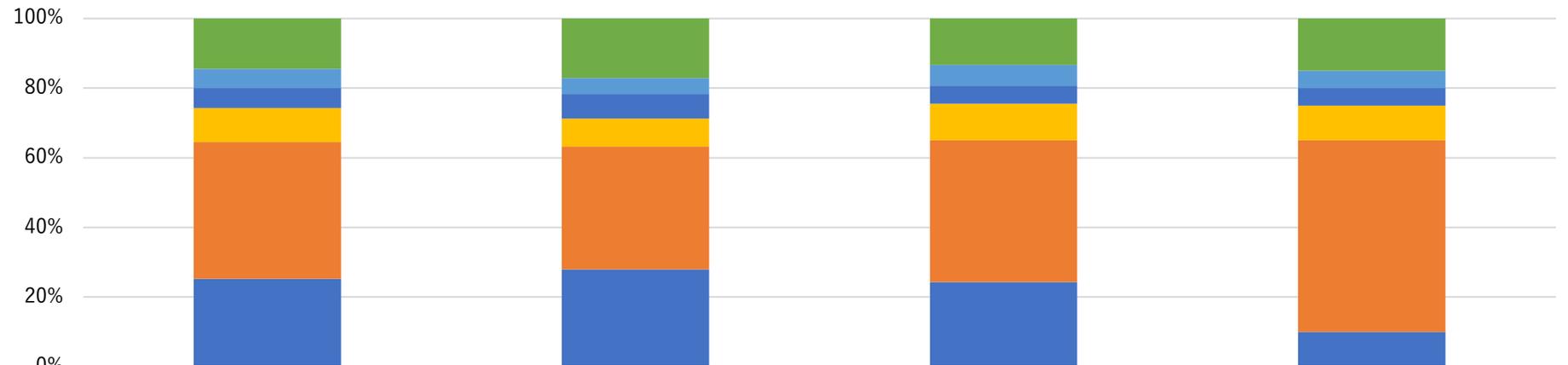


IV. 高校生の価値観

「働く場所はどこでもいい」の回答が男女問わず最多

将来就職する際の働く場所については男女ともに「働く場所はどこでもいい」と答えた割合が最も高かった。
「できれば地元で働きたい」と回答した割合は女子よりも男子の方が若干高く28.0%となった。

将来働く「場所」について、今のあなたの気持ちに一番近いもの



	全体	男性	女性	上記以外
■ まだ考えたことがない	14.5%	17.1%	13.4%	15.0%
■ 絶対に地元を離れたくない	5.5%	4.6%	5.9%	5.0%
■ 絶対に地元で働きたい	5.7%	7.1%	5.2%	5.0%
■ 出来れば地元を離れたくない	9.8%	8.0%	10.5%	10.0%
■ 働く場所はどこでもいい (仕事内容など別の条件を優先したい)	39.3%	35.3%	40.7%	55.0%
■ 出来れば地元で働きたい	25.2%	28.0%	24.3%	10.0%

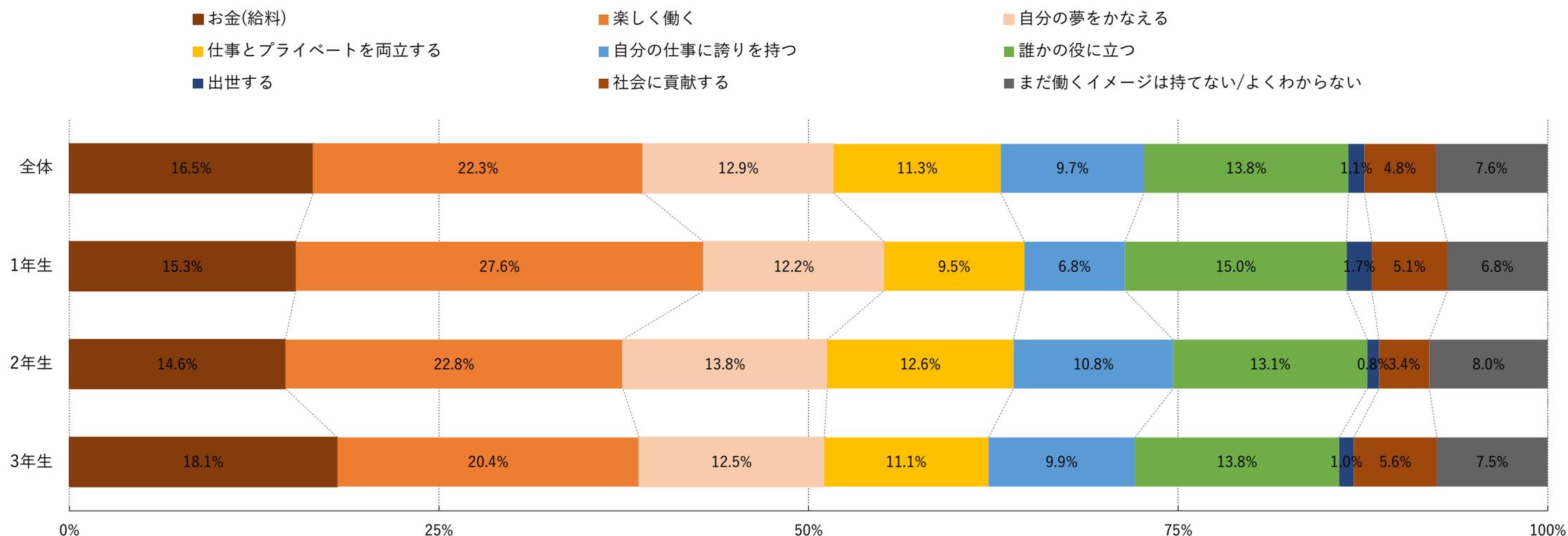
※四捨五入の都合で構成比合計が100%にならない場合があります。

将来働くときに、最も大事にしたいこと

「楽しく働く」の回答割合が最も多い結果に

就職観（将来働くときに最も大事にしたいこと）について聞いたところ、学年を問わず「楽しく働く」が最も多く選ばれた。マイナビが大学4年生向けに行っている「2022年卒大学生就職意識調査」においても「楽しく働きたい」はトップとなっていた。次点には「お金（給料）」が票を集めた。

将来働くときに、最も大事にしたいこと



※四捨五入の都合で構成比合計が100%にならない場合があります。

【参照元データ】
・2021年6月実施マイナビ進学会員定期調査

卒業後の生活では「一人暮らし」への不安がトップ

2021年11月実施の「トレンド調査」より、進路選択や学びの内容に関連しそうなテーマを抜粋。卒業後の生活で不安に感じていることは「一人暮らしについて」がトップ。5位「金銭面」、6位「新生活」がランクインしており、4月以降の生活環境の変化に対する不安が垣間見られた。興味を持っている政策テーマは「ジェンダー」「環境問題」「教育改革」が上位3項目となった。

6 高校生が高校卒業後の生活で不安に感じていること（3年生のみ）

1位	一人暮らしについて	12.6%
2位	友達ができるかどうかについて	11.1%
3位	特に不安はない	10.1%
4位	勉強について行けるかについて	8.1%
5位	金銭面について	6.0%
6位	新生活について	5.6%
7位	コロナの影響について	4.3%
8位	卒業後の進学先がちゃんと決まるかについて	3.8%
9位	アルバイトについて	3.0%
10位	人間関係について	1.5%

8 高校生が興味を持っている政策テーマ

1位	ジェンダー	18.7%
2位	環境問題	14.8%
3位	教育改革	12.6%
4位	感染症対策	11.2%
5位	社会福祉	7.3%
6位	経済支援	7.1%
7位	外交・安全保障	6.7%
8位	貧困者支援	5.2%
	その他	5.6%
	どれも興味はない	10.7%



V .2023年卒以降の展望

より一層重視される「学びの内容」の差別化・早期発信を

1. 2022年5月調査では既に、進学先選びにおいて「学びの内容」を重視する声が挙がっている。
激変する時代においては、一人一人の力を高められる「教育力」が求められる。
2. 一方で自分に合った学校がわからず悩む高校生も多い。
早期から情報を発信し、磨き込んだ教育力で「選ばれる大学」を目指したい。
3. 夏のイベントは進学／非進学に大いに影響する。
ポストコロナ状況を睨みながらもより多くの動員を目指すことが重要。

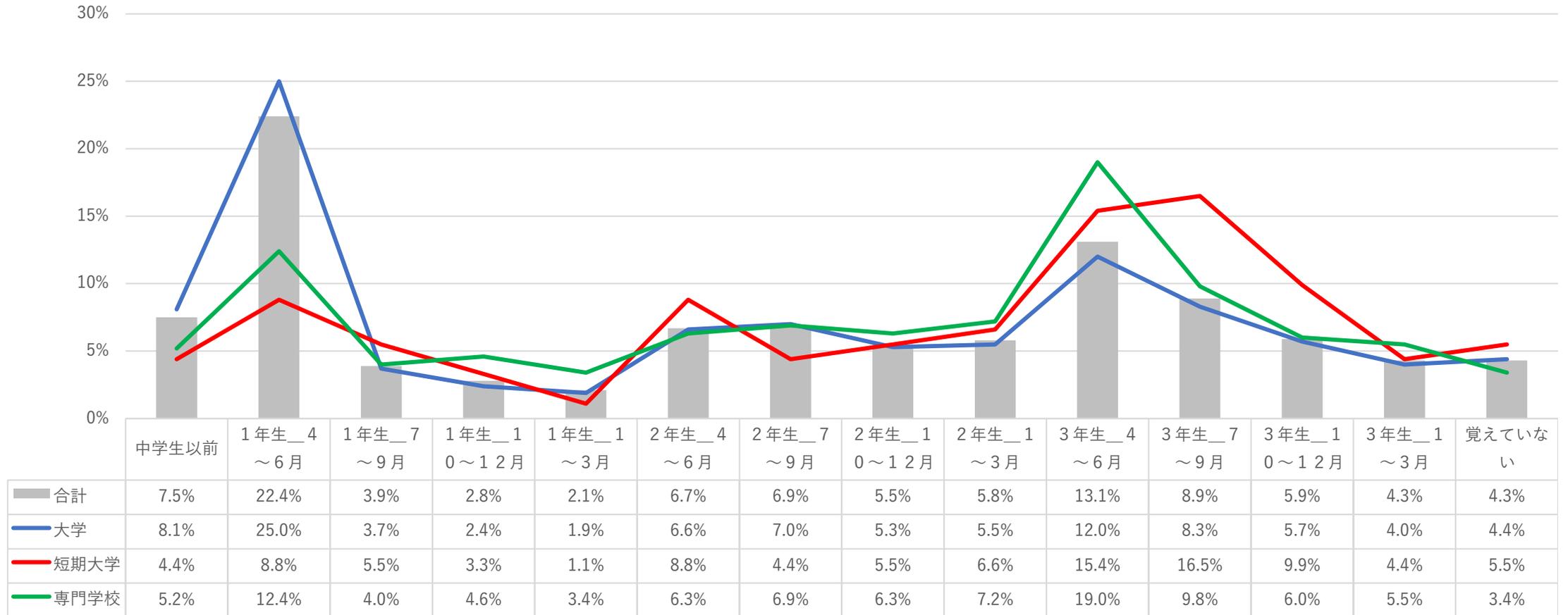


【参考資料】2021年度入試総括より

2022年度進学トレンド総括と比較しやすい項目について、データのみを掲載する。

進学先校の「認知時期」【参考：2021年3月卒】

進学する学校を知った時期

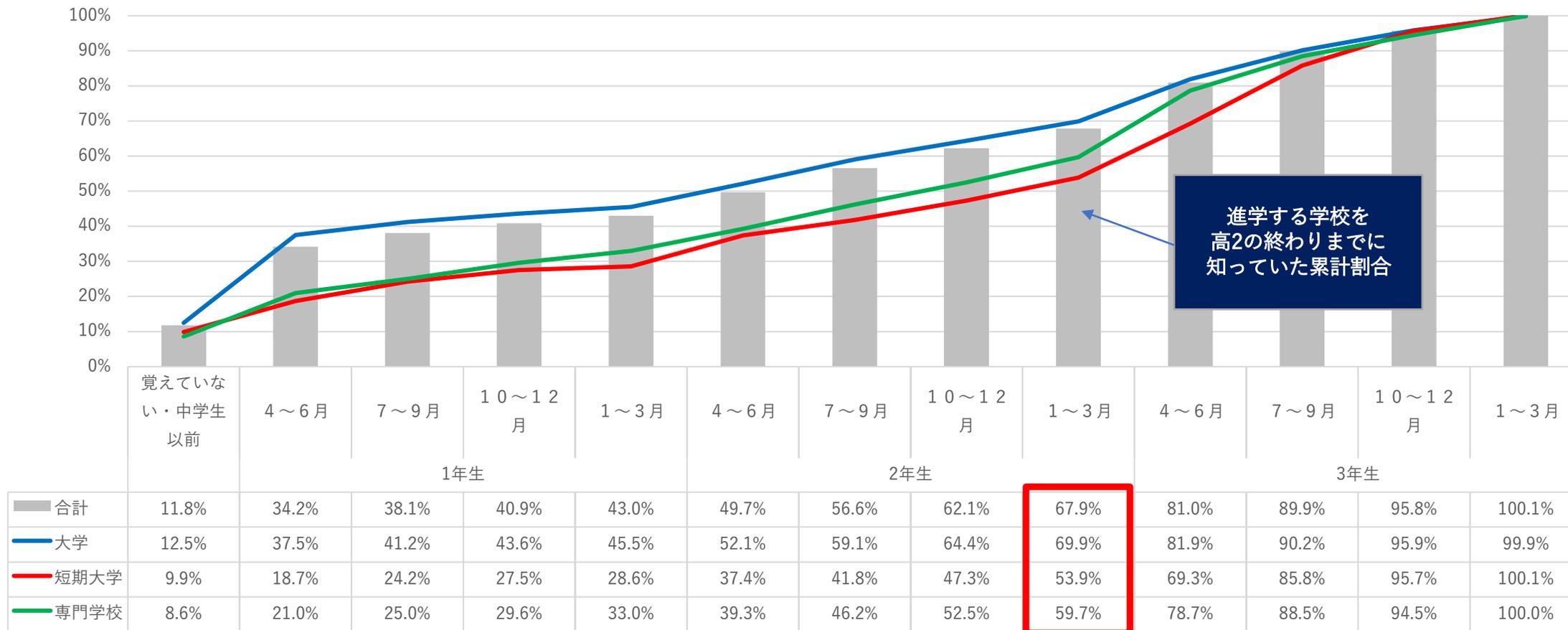


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

進学先校の「認知時期」 (累計) 【参考：2021年3月卒】

進学する学校を知った時期 (累計)



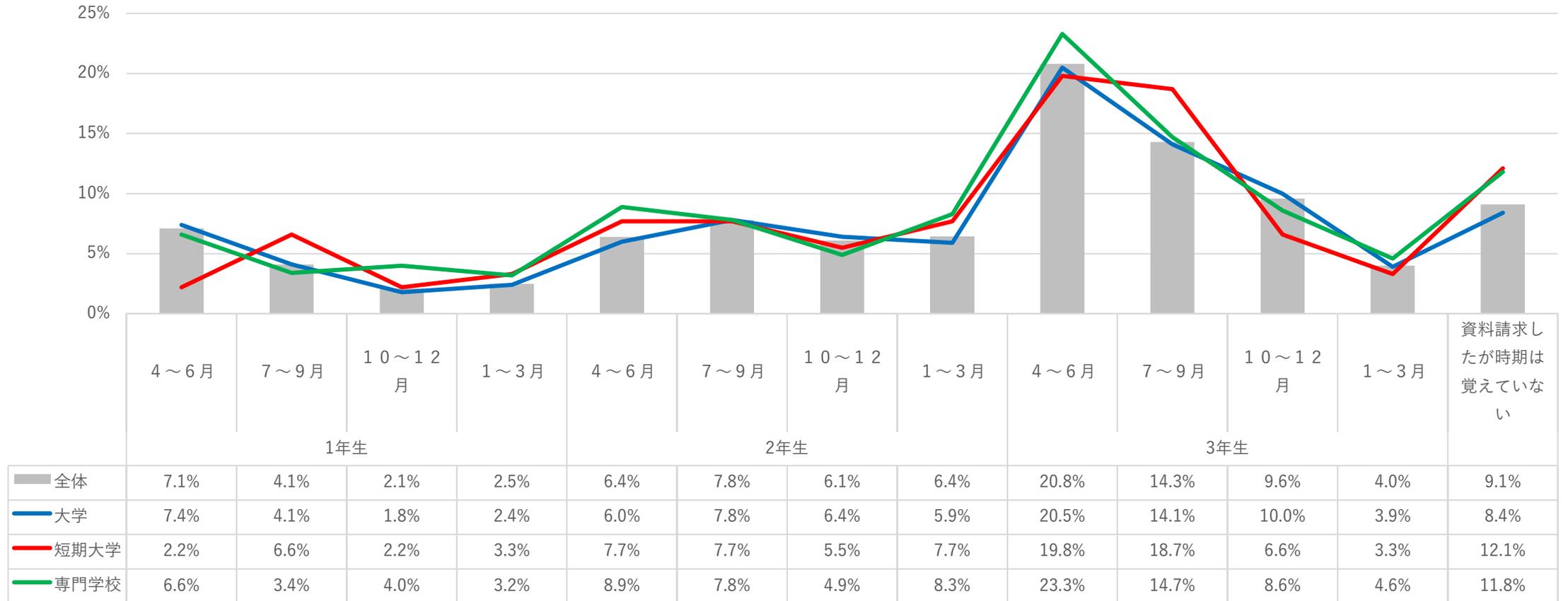
進学する学校を高2の終わりまでに知っていた累計割合

【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

進学先校の「資料請求時期」【参考：2021年3月卒】

進学する学校に資料請求した時期

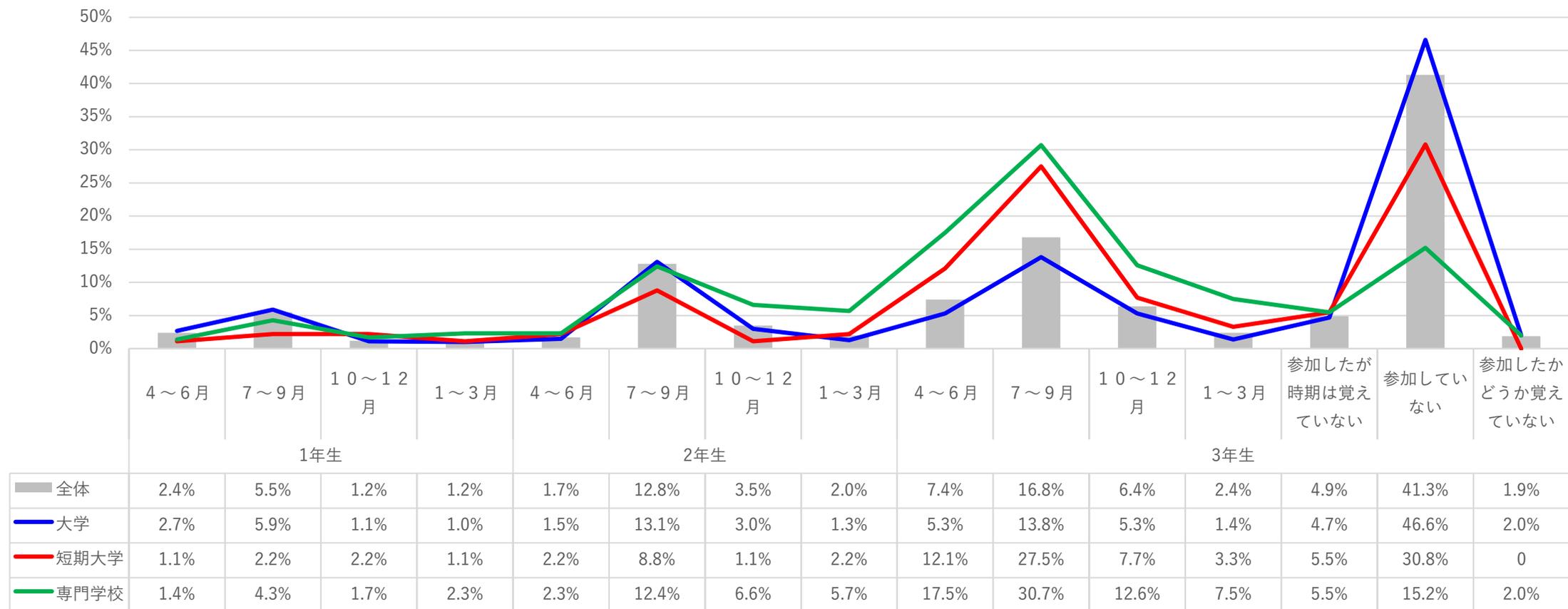


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

進学先校の「イベント参加時期」 ※WEB含む【参考：2021年3月卒】

進学する学校のオープンキャンパス等のイベントへの参加時期

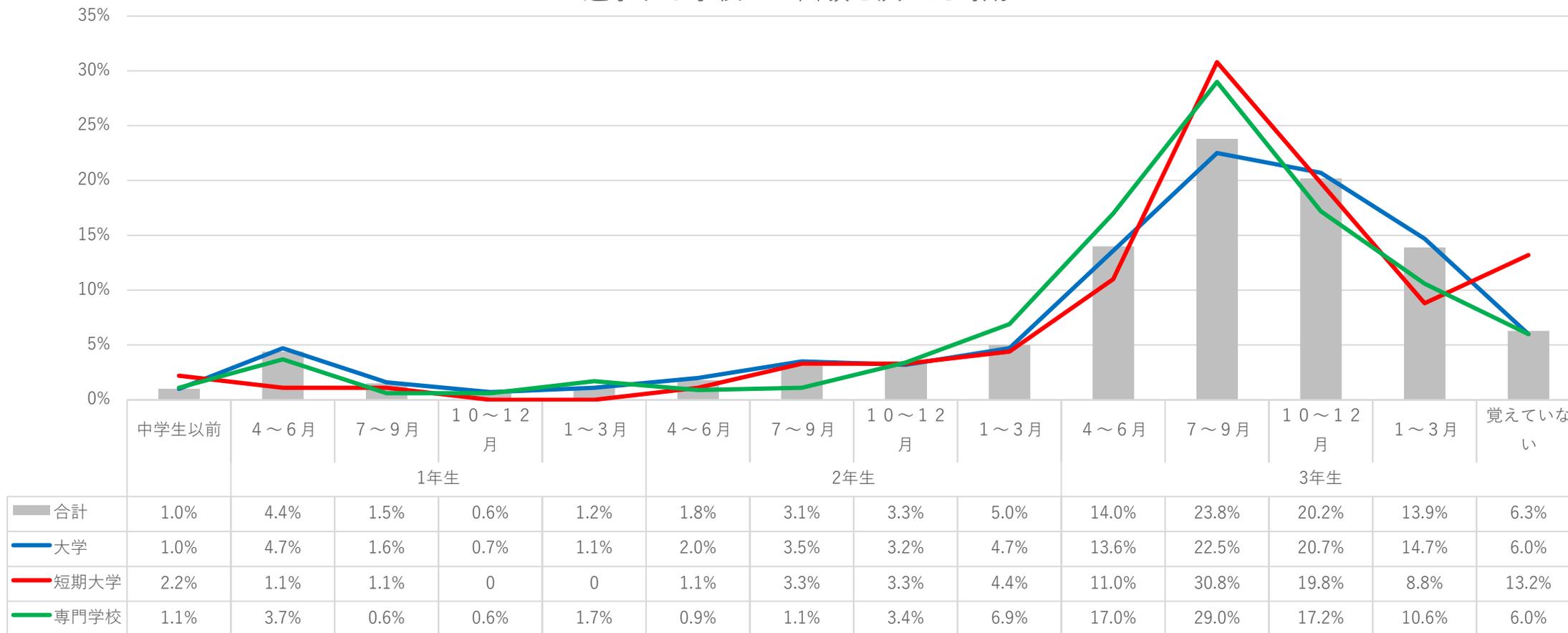


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

進学先校の「出願決定時期」 【参考：2021年3月卒】

進学する学校への出願を決めた時期

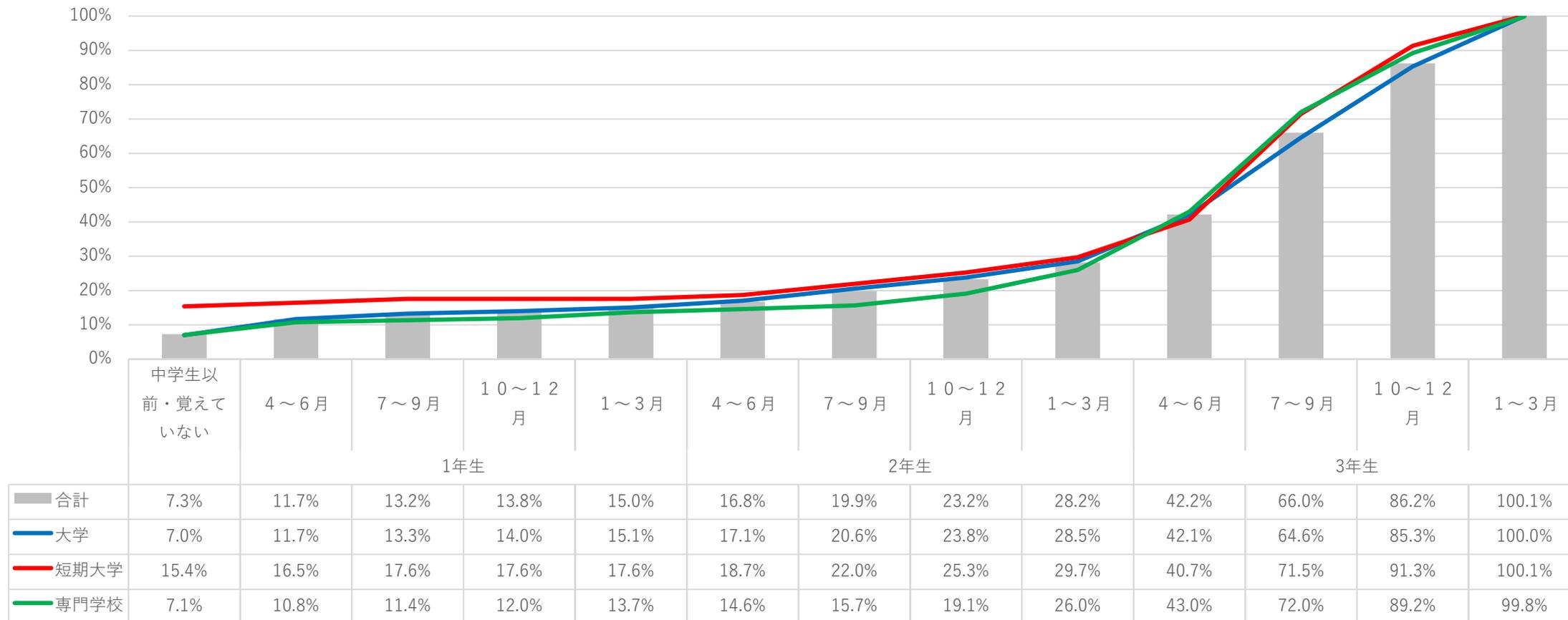


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

進学先校の「出願決定時期」 (累計) 【参考：2021年3月卒】

進学先への出願を決めた時期 (累計)

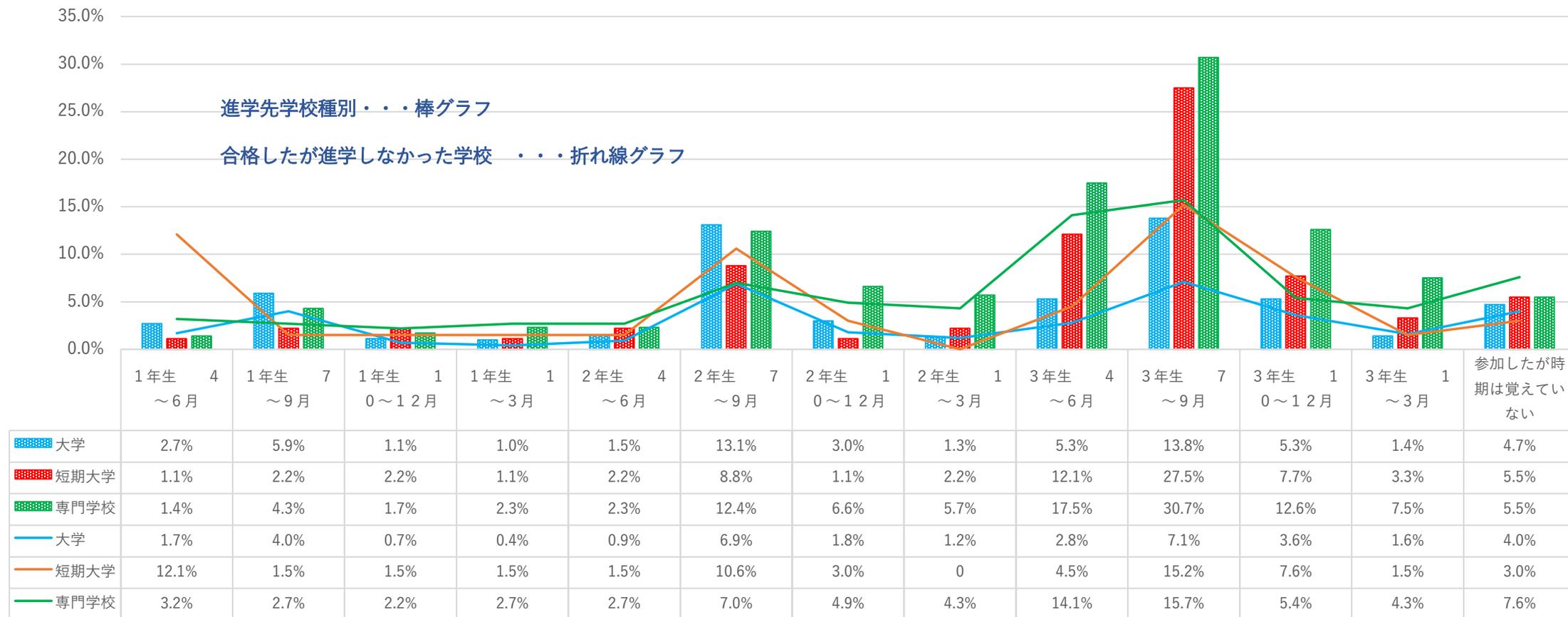


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

「イベント参加時期」進学先校と非進学校との比較【参考：2021年3月卒】

オープンキャンパス等のイベントへの参加時期

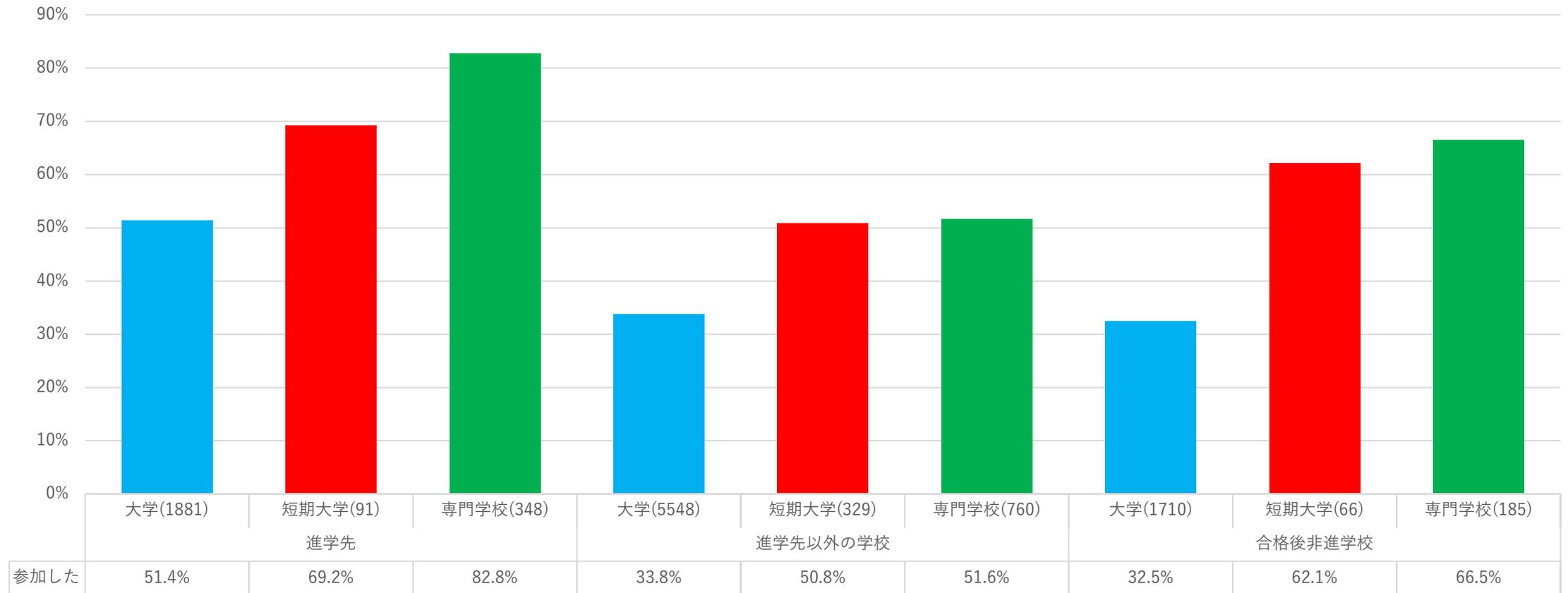


【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021

「イベント参加割合」進学先校と非進学校との比較【参考：2021年3月卒】

オープンキャンパス等のイベントに参加した割合



【参照元データ】

・高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2021



マイナビ進学総合研究所

本データを出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、「※調査名」（マイナビ進学総合研究所調べ）と明記ください。
資料に関するご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 教育支援統括本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail : ms-souken@mynavi.jp

URL: <https://souken.shingaku.mynavi.jp>